

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	学校法人 関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本では高齢化率が急速に高まり、高齢者がより望ましい経済行動を行うための制度を設計することは、社会的要請が高いと考えられる。本プロジェクトの第1の目的は、本学内に経済実験ラボラトリ（実験室）を設置し、高齢者を中心とした社会人参加者を広く学外から募集、経済実験や質問紙調査を実施し、データを収集して、高齢者の意思決定の特徴を明らかにし、高齢者がより望ましい選択を行うための制度の設計、検討、導入を行うことである。第2の目的は、実験室を学外開放（オープンラボラトリ）することである。経済実験は実施の準備が膨大で、個別で実施するのは難しい。そこで実験希望の学内外の研究者に対し、実験実施機会を提供する。これを通じて、本学を実験経済学の国内外の拠点とする。また、オープンラボラトリ化は本プロジェクトに関わる個別研究の促進、研究者間での共同研究の推進を可能にする。

計画概要は以下の通りである。1-4年目に社会人・学生の参加者を募り、各種経済実験を実施する。5年目に社会人の経済行動を盛り込んだ社会シミュレーションを構築し、マクロ経済状況がどのように変化するか検討する。また、実験結果から、社会人の経済行動における特徴を抽出し、政策提言につなげる。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

プロジェクトは概ね順調に進捗している。最初に社会人・高齢者の経済的意思決定データ収集を述べる。まず、初年度の経済実験室設置、2年目の実験室本格運用開始を経て、3年目には、タブレットPCと無線LANを用いた学外(山形県、京都府等)実験実施まで進んだ。社会人・高齢者を対象にした実験から、大学生との意思決定の違い、認知能力(流動的知性の指標で、本指標が高い者は貯蓄、健康維持がより容易であるとされる)の違いによる意思決定の違いが明らかになった。社会人や高齢者は若年よりも気前がよいが、それは認知能力の低さに依存している可能性があること、認知能力の高い社会人は概ね合理的な行動を選択することが明らかになった。この結果は社会人・高齢者の行動に認知能力が影響することを示唆している。

次にオープンラボラトリ化を述べる。実験室および倫理委員会設置後、学外研究メンバーを皮切りに、プロジェクトとは関係がなく(さらに研究メンバーとも共同研究をしていない)研究者にも実験室利用を許可してきた。その結果、参加者プールの規模、実験室の稼働状況において世界有数の実験拠点として成長した。成果が出た研究もあれば、投稿中の研究もあるが、関西大学を拠点とした研究が将来的に数多く発表されることが期待される。

最後にプロジェクトに関連して開催した研究集会について簡単に述べる。2年目、3年目の研究集会開催を始め、年に3回程度のワークショップ開催と精力的に活動している。平成29年度は実験社会科学カンファレンスの開催校に内定しており、10月末の開催で調整している。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

**平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 学校法人 関西大学 2 大学名 関西大学

3 研究組織名 経済実験センター

4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町3-3-35

5 研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	ソシオネットワーク 戦略研究機構・社会学部	教授（前准教授）

8 プロジェクト参加研究者数 14 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
小川 一仁	ソシオネットワーク戦略研究機構社会学部・教授（前准教授）	高齢者の個人的意思決定、協力行動の測定、特徴付け、政策的応用及び社会シミュレーション	A01 班リーダー 実験ラボラトリ設計責任者、時間選好・独裁者ゲーム実験責任者、経済学と社会シミュレーションの接合領域の文献調査
松下 敬一郎	ソシオネットワーク戦略研究機構経済学部・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	A02 班リーダー 実験ラボラトリ設計副責任者 米国 cog-econ との連携
本西 泰三	ソシオネットワーク戦略研究機構経済学部・教授	高齢者の個人的意思決定、協力行動の測定、特徴付け、政策的応用及び社会シミュレーション	テーマリーダー、政策面でのアドバイザー
小林 創	経済学部・教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	A03 班リーダー 参加者データ管理責任者、囚人のジレンマ・公共財実験責任者

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

長久 領壱	経済学部・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	理論面でのアドバイザー
座主 祥伸	経済学部・准教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	独裁者ゲームなどの実験責任者
舟場 拓司	社会学部・教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	リスク回避度実験のサブリーダー
村田 忠彦	ソシオネットワーク戦略研究機構総合情報学部・教授	高齢者の意思決定と社会シミュレーション	A04 班リーダー エージェントの実装
(共同研究機関等) 小田秀典(宗兵衛)	京都産業大学 経済学部・教授	高齢者の意思決定と社会シミュレーション	ラボラトリ設計、シミュレーション設計のアドバイザー
尾崎 祐介	大阪産業大学 経済学部・准教授	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	高次リスク回避度実験のリーダー
藩 俊毅	神戸大学 経済経営研究所・教授(前准教授)	高齢者の個人的意思決定の測定、特徴付け、政策的応用	リスク回避度実験のリーダー
七條 達弘	大阪府立大学 第1学群社会科学系・教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	囚人のジレンマ、公共財実験の責任者
奥井 亮	上海紐育大学・副教授(前京都大学経済研究所・准教授)	各種実験、質問紙調査の計量経済学的分析	計量分析全般の責任者
高橋 広雅	広島市立大学 国際学部・准教授	高齢者の協力行動の測定、特徴付け、政策的応用	中山間地域での実験アドバイザー

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

該当なし

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本では高齢化率が急速に高まり、高齢者がより望ましい経済行動を行うための制度を設計することは、社会的要請が高いと考えられる。本プロジェクトの第1の目的は、本学内に経済実験ラボラトリ（実験室）を設置し、高齢者を中心とした社会人参加者を広く学外から募集、経済実験や質問紙調査を実施し、データを収集して、高齢者の意思決定の特徴を明らかにし、高齢者がより望ましい選択を行うための制度の設計、検討、導入を行うことである。第2の目的は、実験室を学外開放（オープンラボラトリ）することである。経済実験は実施の準備が膨大で、個別で実施するのは難しい。そこで実験希望の学内外の研究者に対し、実験実施機会を提供する。これを通じて、本学を実験経済学の国内外の拠点とする。また、オープンラボラトリ化は本プロジェクトに関わる個別研究の促進、研究者間での共同研究の推進を可能にする。

計画概要は以下の通りである。1-4年目に社会人・学生の参加者を募り、各種経済実験を実施する。5年目に社会人の経済行動を盛り込んだ社会シミュレーションを構築し、マクロ経済状況がどのように変化するか検討する。また、実験結果から、社会人の経済行動における特徴を抽出し、政策提言につなげる。

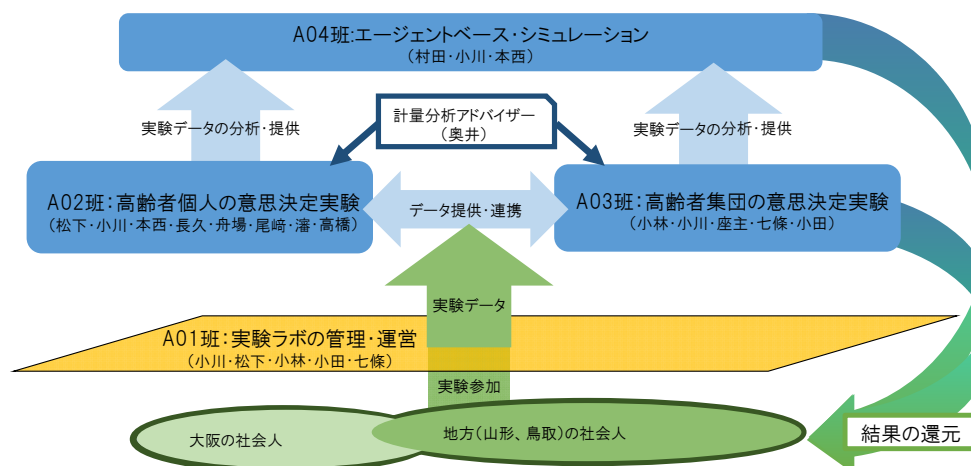
(2) 研究組織

1 研究代表者の役割

研究代表者は本プロジェクトの研究目的を遂行するため、研究者及び研究チーム間で活発なコミュニケーションが行われるように研究メンバーの統括・管理を行う。具体的には、研究会やワークショップ、国際会議の開催等、様々な機会を設け、共同研究の基盤構築と研究方向の確認、意思統一を図る。また、プロジェクトの進捗状況に応じた予算配分の検討を行う。さらに、経済実験や研究会実施において、研究員と外部（他大学・自治体など）との仲介役を担う。

2 各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

本プロジェクトは、研究チームを4班に分け、研究を進めている。平成26年9月に事業開始、平成27年2月から社会人向けの経済実験を開始した。実験回数を重ねるなかで、A01班、A02班、A03班の研究連携を強めた。A04班との連携は、平成27年度、平成28年度は、A02班、A03班のデータ集約、データ分析の整理と同時進行で行い、本格的な始動を平成28年度末から行う。



3 研究プロジェクトに参加する研究者の研究者の人数

本プロジェクトは14名の研究員で組織され、その内訳は関西大学から8名、国内の他大学から6名となっている。各研究員は本センターの実験準備室、マルチメディアラボシステムを利用し、研究者間の研究情報交換を高め、共同研究に繋げている。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

さらに学内研究者による研究推進委員会・倫理審査委員会が設置され、実験センターの事業活動事項の検討、実験申請事項に対する倫理審査を行っている。

4 PDの人数・活用状況

PDは、平成26年度1名、平成27年度2名を任用、PDは、センターの主事業である経済実験の実験室実験、学外実験を担当し、データ分析、データ整理の習熟を高め、若手研究者の育成、研究推進を図っている。2名の内1名が平成29年3月末に他大学に専任教員として転出するため、平成29年4月に新規PD1名を任用する。

5 研究チーム間の連携状況

研究チームの間では適宜ミーティングを開催し、意思疎通を図っている。また、プロジェクトチーム間で、定期的に学内外の研究者を招いた研究会（CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics）を開催し、メンバー間での研究情報交換と学外研究者との研究交流を行っている。加えて、随時、研究メンバー間でランチミーティングやミーティングを実施、研究情報の交換、新規分野への研究推進に繋げている。その結果、N県I市でのフィールド実験、山形県、T県での学外実験の実施へと繋がった（データ収集中の県は県名を伏せる）。

6 研究支援体制

プロジェクトの研究支援は、母体であるソシオネットワーク戦略研究機構（以下「RISS」）事務室が対応している。「RISS」事務室には、研究所事務グループ長1名（他の研究所と兼務）、専任事務職員2名、派遣職員3名、定時事務職員1名が配置され、母体である「RISS」の研究支援と合わせ、予算執行、研究資料作成、実験データ整理、外部広報等の研究支援を行っている。母体である「RISS」の運営委員会では、大学側から副学長、常任理事が出席、本センターの活動内容を含めた「RISS」事業計画の検討が行われ、大学としての研究支援体制が敷かれている。

7 共同研究機関等との連携状況

経済実験センターの上位組織である「RISS」では、高知工科大学フューチャーデザイン研究センターとの連携協定の締結にあたり、本センターとの連携（実験の共同実施、ワークショップの開催等）が協力事業とされた。今後、他の大学・研究機関との連携を一層深めていく。

(3) 研究施設・設備等

1 研究施設の面積

本センターの母体であるRISSの建物に以下の実験・研究スペースを確保している。なお、当建物はセキュリティカードの利用により24時間365日利用可能な研究環境を整備している。

経済実験ラボラトリ室	120.00m ²	実験ラボ準備室	39.60m ²
共同研究室1	19.80m ²	共同研究室2	19.80m ² （合計 199.20m ² ）

また、以下の研究スペースは本センターの母体であるRISSと共用で利用している。

マルチメディア・ラボ	120.00m ²
サーバ室 ※	19.80 m ² （合計 139.80m ² ）

※経済実験ラボラトリデータ管理システム及びサーバ・ネットワーク機器を設置

2 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数

経済実験ラボラトリデータ管理システム（実験データ処理関係設備）

19,896時間（平成26年12月19日設置～平成29年3月末まで常時稼働。設置日、法定停電日3日間を除く）実験参加者の常時募集、研究者のデータベースの利用のため、24時間稼働。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞

[1年目(平成26年度)]平成26年12月に「経済実験室」が完成、同月中旬から実験室の運用を開始した。採択後すぐに研究推進委員会を設置し、PDの雇用や実験室利用規約の制定、倫理審査委員会の設置を行った。平成27年2～3月に学生40名、社会人79名の参加者でプロジェクト関連の経済実験を実施した。当初収集を始めたのは、社会人が他者一般を信頼するかどうかに関するデータである。平成27年3月にワークショップ「日本における経済実験環境のコンソーシアム化をめざして」を本学で開催し、オープンラボラトリ化に関する議論を深めた。

[2年目(平成27年度)]プロジェクトのデータ収集と、オープンラボラトリ化に伴った他大学の研究者の経済実験を実施した。その結果、全110回の経済実験を実施した。(平成27年度の参加者数:学生延べ1302名、社会人延べ780名)このように高頻度で稼働している経済実験室は世界的にも珍しい。海外の研究者の受け入れとして、平成27年7月に海外から著名な実験経済学者4名を招聘し、本学と京都大学で国際会議を行った。その他「CEE and RISS seminar series on experimental economics」を定期的に開催し、学内外の研究者との研究交流を進めている。

[3年目(平成28年度)]学内実験室での経済実験を継続的に実施した。加えて山形県西川町(実験回数13回、参加者延べ148人)、京都府亀岡市(同1回、参加者延べ12人)、T県Y町(同4回、参加者延べ42人)、公立鳥取環境大学(同3回、参加者延べ57人)で出張実験室を設置し、非都市部の社会人・学生が都市部と異なるかを検討した。また、I市ではメタボリック症候群の社会人の健康指導を促す施策をフィールド実験で実施している。オープンラボラトリについては、高知工科大学、慶應義塾大学、ニース大学などの研究者が継続的に利用している。

＜特に優れた研究成果＞

高齢者の経済的意思決定を多角的視点から評価するため、複数の研究が実施されている。日本の高齢者は平均的にはすべての世代で最も資産が多い。その資産の有効活用の一つとして寄付に着目し、高齢者の寄付行動を検討したのが、下記の(1)、(5)、(8)である。これらは高齢者を含めた社会人の寄付行動を検討した数少ない研究で重要性が高い。(2)、(3)と(6)は協力的行動を検討している(ただし(2)は学生データ)。高齢者は地域社会での諸活動(自治会や町内会、NPOなど)で重要な位置を占めており、彼らが他人を信頼するか、協力的か、又、どのような状況で協力的になるかを検討することは彼らの活躍のためにも重要である。(4)と(5)は高齢者の認知能力が寄付行動や資源の分配に影響を与えるかを検討している。認知能力はリスク認知や計画的行動などに関連していることが知られていたが、利他行動にも影響があることが分かった。これまでの研究は学生の認知能力を検討していたので、本研究はそれを社会人に拡大した点で重要である。(7)は高齢者の健康を促進する研究で、政策形成に寄与できる点で重要である。

以下、個別研究を簡介する。(1)寄付受取までに時間がかかると寄付額が減少する(Ogawa and Ida, 平成27年)*8ことがわかった。これは寄付を迅速に届けるための環境整備が提案できることを示唆している。(2)複数の活動で協力するよりも、個々の活動で協力する方が容易である(Yang et. al., 平成28年)*7ことが明らかになった。協力が容易な活動から進めていけば、街作りなどの運営の一助になると考えられる。(3)社会人の高齢女性は他人をあまり信用しない(森・小川, 平成28年)*221ことが明らかになった。社会人の女性が特殊詐欺の被害に遭いにくいことを示唆している。(4)認知能力の高い女性提案者は相手に多く分配するが、男性の分配は認知能力に関係なく女性より多い。また、熟考を促す状況では、認知能力の高い応答者は提案受諾がより合理的になる(Kawamura and Ogawa, 平成28年)*220。熟考を促すと認知能力の高い人が特殊詐欺に遭う可能性を減らせることを示唆している。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

その他、WP (ワーキングペーパー) と未公開の成果に、(5) 社会人の寄付行動に関するもの、(6) 社会人が社会全体の利益と個人の利益が相反する状況に置かれた場合に、社会の利益を優先できるかどうか、(7) メタボリック症候群の人が特定保健指導を受けに病院に行くための刺激には何があるか、(8) 地方と都会の社会人の利他性の違いに関する研究がある。

(5) 独裁者ゲーム実験を実施し、見知らぬ他者に社会人・高齢者がどれだけ寄付するか、どのような要因に影響を受けるか検討した。まず、関西の社会人(208名)は約30%の寄付率、山形の社会人(51名)は約49%で、前者が有意に低く、地域差が確認できた。寄付率に影響するのは認知能力(高いほど寄付を減らす)、年齢と認知能力の交差項(認知能力を固定した場合に年齢が高まると寄付が増える)だった。二つ目の結果はこれまで知られていない、新たな発見である。

(6) 繰り返し囚人のジレンマ実験の協力率を検討した。仮説は、「平均終了回数が増えるにつれ、協力率が高まる」で、社会人を対象にこれが検証されたことは少ない。実験結果を述べる。協力率は25.4%(平均終了回数2回)、35.2%(同4回)で仮説は支持された。平均終了回数が4回の時に認知能力が高いと有意に協力しやすかった。これは平均終了回数が増えると認知能力の高い社会人が協力しやすいことを示している。この実験は地域の問題と関連するので、それらを解決する際の重要人物が認知能力の高い人であることが示唆された。

(7) I市では毎年約600人がメタボリック症候群と診断され、特定保健指導が推奨されるが、受診率が低い。そこで、対象者をランダムに3群に分け刺激を与えた。A群は何も与えない。B群にはかかりやすい疾患を示したチラシを追加、C群には、B群と同内容だが見た目に恐怖心を与えるチラシを追加した。現在の所、C群の受診率が他群よりもやや高い。

(8) 山形の社会人(51名)は約半額、都市部の社会人(大阪北部208名)は約3割、本学学生(97名)は約17%を寄付した。実験実施に協力してくれた西川町役場の人のヒアリングから「雪の多い地域で人々が協力して事に当たらないと、何もできない」という回答を得た。本地域では利他的な行動や平等主義が社会規範である可能性が高い。この結果は山形大学でプロジェクト実施前に収集した(Ito et al., 平成28年)*1の結果とも整合的だった。本実験結果を地域振興に利用できると考えている。

次いで実験室のオープンラボラトリ化の成果を述べる。本学経済実験室の稼働率は日本でも有数である。また、ほとんどの大学の経済実験室が所属大学の研究者およびその関係者にのみ開放している中で、本学経済実験室は倫理審査委員会の審査を通過すれば(本学研究者との共同研究でなくとも)経済実験ができる(謝金などは当該研究者の負担)。このように、実験実施のハードルを下げ、経済学の実証科学化に大きく寄与している点は重要である。

実験室の稼働状況は平成26年12月稼働開始以来年々増加している。平成27年度、年間110回、平成28年度264回(平成29年3月31日現在)の経済実験が行われている。この内、社会人向け実験は112回、社会人と比較するための学生向け実験は42回実施された(いずれも平成27年度、平成28年度の合計)。それ以外はオープンラボラトリ化に伴う実験である(計220回)。

社会人参加者のプールが豊富であることも、研究遂行上の財産であり、他と差別化できる特色で、平成29年3月31日現在では計927人の社会人が登録している。(52%が男性、平均年齢は54歳)。29%が吹田市在住、16%が大阪市在住、9%が豊中市在住、11%が西川町在住である。

さらに、大阪産業大学、明治学院大学の経済実験室立ち上げに本センターのノウハウを提供した。また、研究代表者は経済実験の解説論文を学術誌に掲載している(小川, 平成27年)*4。

<問題点とその克服方法>

研究遂行上の問題点は社会人参加者の募集である。居住地が本学から遠いほど参加者を募る

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

のが難しい。また、若年、中年の参加者を募る場合には土曜日・日曜日に実施せねばならないが、特に日曜日の実施が難しい。改善点として、居住地が本学から遠い場合にはチラシを多めに配布する措置を講じている。土曜日に多めに実施している。

＜研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)＞

研究に協力的な地方自治体を得られた点は大きい。彼らと連携して研究を進めることで、地域の現実問題に高齢者、社会人がどのように関わり、どのように意思決定しているかを分析できる。山形県西川町では介護事業に関する政策評価をフィールド実験の手法を用いて実施する方向で町役場と調整に入った(平成29年度実施予定)。また、内閣府社会経済研究所も本プロジェクトに注目しており、平成29年3月1日に研究代表者が招聘され、「実験経済学の手法を用いた政策効果測定」というテーマで発表した。当該研究所とは将来の連携が見込めると考えている。

＜今後の研究方針＞

平成29年度はT県を中心に非都市部の社会人の行動データを収集し、都市部の社会人と非都市部の社会人の行動比較を行う。平成28年度に収集した社会人データのうち、追加データを一部収集し、研究論文を作成し、各種学会で本格的に報告する。また、これまで着手できなかったリスク回避度の実験などを実施したい。本年度もオープンラボラトリを継続し、経済学全体の底上げを図る。研究分野の裾野を広げるためにも新たな利用希望者を優先したい。

また、10月下旬に実験社会科学カンファレンスを開催する。この研究集会は約20年前に始まった国内最大規模の実験経済学・社会科学研究者の集会である。近年参加者の固定化、減少が問題になっていたが、本学での大規模な開催に向けて様々な試みをはじめているところである。

平成30年度は研究の総括として、社会人の行動傾向をまとめ、社会シミュレーションの実施と分析か、少なくとも実施の準備段階までは進める予定である。

＜今後期待される研究成果＞

平成29年度以降に期待される研究成果は(1)I市でのデータ収集の終了と分析、(2)山形県西川町での政策評価実験の実施と分析、(3)リスク態度と時間選好に関する社会人実験の実施と分析、(4)金融リテラシーと特殊詐欺の調査である。(1)は特定保健指導の受診を促すにはどのようなチラシがよいか、結論が出る。(2)は西川町の介護事業の評価を住民の声を(アンケート調査で)くみ取り、事業の改廃を行う。(3)は高齢者のリスク態度、時間選好に関する実験を実施し、これまで収集したデータと組み合わせて分析を進める。(4)はインターネット調査で行い、どのような社会人が特殊詐欺や多重債務に陥りやすいか分析できる。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞

平成27年12月に大学の「外部資金審査・評価部会」の研究進捗状況チェックにおいて、研究活動が順調に進捗しているとの評価を得たが、社会人の経済実験データ収集の遅れについてコメントがあったので、より広域の居住者、より幅の広い年齢層の参加者を得るため、チラシ配布方法の工夫、ネットでの募集、学生父母会、校友会へ周知を図った。【別紙資料 資料1】

＜外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況＞

外部評価委員3名を委嘱し、平成28年7月に評価を受けた。研究員の発表論文数(21件)、経済実験の実施回数(年110回)で高い評価を得た。研究成果の発表で、国内だけでなく、国際的な展開が示唆されたことを受け、平成29年度以降、国際学会や国際評価の高い学術誌への発表を積極的に行う。【別紙資料 資料2】

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 実験経済学 (2) 社会人の意思決定 (3) 開放型実験拠点(オープンラボラトリ)
 (4) フィールド実験 (5) 学外での経済実験 (6) 利他性
 (7) 合理的意思決定 (8) リスク態度

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

小川一仁

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
*1	Takehiro Ito, <u>Kazuhiro Ogawa</u> , Akihiro Suzuki, <u>Hiromasa Takahashi</u> , Toru Takemoto	Contagion of Self-Interested Behavior: Evidence from Group Dictator Game Experiments	German Economic Review	17	4	425-437	平成 28 年
2	<u>Hiromasa Takahashi</u> , Junyi Shen, <u>Kazuhiro Ogawa</u>	An Experimental Examination of Compensation Schemes and Level of Effort in Differentiated Tasks	Journal of Behavioral and Experimental Economics	61	1	12-19	平成 28 年
3	鈴木明宏、伊藤健宏、 <u>小川一仁</u> 、 <u>高橋広雅</u> 、竹本亨	後続実験における意思決定に先行実験が与える影響 ―一方の最後通牒ゲーム実験による分析―	山形大学紀要(社会科学)	46	2	39-44	平成 28 年
*4	<u>小川一仁</u>	数理社会学ワンステップアップ講座(9) 実験経済学入門-セミナー+α-	理論と方法	30	2	331-344	平成 27 年
5	<u>小川一仁</u>	「社会学におけるゲーム理論の応用可能性」へのコメント	経済社会学会年報	37	-	34-37	平成 27 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
6	鈴木明宏、高橋広雅、竹本亨、西平直史、小川一仁	Easy Economic Experiment System を用いた経済実験の教育効果: 囚人のジレンマと協調ゲーム	山形大学紀要 (社会科学)	46	1	1-29	平成 27 年
*7	Junho Yang, Tetsuya Kawamura, Kazuhito Ogawa	Experimental multimarket contact inhibits cooperation	Metroeconomica	67	1	21-43	平成 28 年
*8	Kazuhito Ogawa, Takanori Ida	Investigating Donating Behavior using Hypothetical Dictator Game Experiments	Review of Social Economy	73	2	176-195	平成 27 年
9	藤倉崇晃、小川一仁、秋山英三	仲介者と取引するトレーダーの曖昧性忌避とリスク回避 — 経済実験による検証 —	応用経済学研究	8	-	69-94	平成 27 年
10	Junyi Shen, Kazuhito Ogawa, Hiromasa Takahashi	Examining the Tradeoff Between Fixed Pay and Performance-Related Pay: A Choice Experiment Approach	Review of Economic Analysis	6	2	119-131	平成 26 年
11	尾崎祐介、小川一仁、後藤達也	高次リスク回避と高次リスク回避度	大阪産業大学経済論集	15	2/3	75-88	平成 26 年

小林創

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
12	Hajime Kobayashi, Katsunori Ohta, Tadashi Sekiguchi	Optimal Sharing Rules in Repeated Partnerships	Journal of Economic Theory	166	-	311-323	平成 28 年

長久領壺

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
13	Tomoyuki Kamo, Ryo-Ichi Nagahisa	Arrovian social choice with psychological thresholds	Journal of Mathematical Economics	63	C	93-99	平成 28 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

座主祥伸

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
14	<u>Yoshinobu Zasu</u> , (with Atsushi Tsuneki)	On the Complementarity between Law and Social Norms	Review of Law & Economics	11	3	503-512	平成 27 年

舟場拓司

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
15	<u>舟場拓司</u>	労働分配率に関する予備的分析	関西大学社会学部紀要	48	2	81-89	平成 29 年

村田忠彦

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
16	<u>村田忠彦</u>	シミュレーションの世界 社会シミュレーションの展望	日本シミュレーション学会論文誌	-	-	-	平成 29 年
17	柘井大貴、 <u>村田忠彦</u>	統計データからの市民属性復元のための進化計算と SA による 2 段階最適化	システム制御情報学会論文誌	30	6	-	平成 29 年
18	<u>Tadahiko Murata</u> , Takuya Harada, Daiki Masui	Modified SA-based Household Reconstruction from Statistics for Agent-Based Social Simulations	Proc. of IEEE International Conference on System, Man & Cybernetics: SMC 2016 (Budapest, Hungary, Oct. 9-12, 2016)	-	-	3600-3605	平成 28 年
19	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	公的年金制度における 47 都道府県の所得代替率に関する考察	システム制御情報学会論文誌	29	9	422-431	平成 28 年
20	Nisuo Du, <u>Tadahiko Murata</u>	Income Replacement Rate by Region and Household Type in Japanese Pension System Using Microsimulation	Proc. of 11th Conference of the European social simulation association (Rome, Italy, Sep. 19-23, 2016), Paper ID: 76	-	-	12 pages	平成 28 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
21	Daiki Masui, <u>Tadahiko</u> <u>Murata</u>	A two-fold simulated annealing to reconstruct household composition from statistics	Proc. of IEEE International Conference on System, Man & Cybernetics: SMC 2015 (Hong Kong, China, Oct. 9-12, 2015)	-	-	1133-1138	平成 27 年
22	Nisuo Du, <u>Tadahiko</u> <u>Murata</u>	Comparing income replacement rate by prefecture in Japanese pension system	Proc. of 11th Conference of the European social simulation association (Groningen, The Netherlands, Sep. 14-18, 2015), Paper ID: 113	-	-	13 pages	平成 27 年
23	Taiyo Maeda, Shigeru Matsumoto, <u>Tadahiko</u> <u>Murata</u>	Agent Heterogeneity and Facility Congestion	Computational Economics	46	2	189-203	平成 27 年
24	Goutam Chakraborty, Robert Raynolds, <u>Tadahiko</u> <u>Murata</u> and Qiangfu Zhao	Awareness in Brain, Society and Beyond	IEEE Systems, Man, and Cybernetics Magazine	3	-	10 pages	平成 27 年
25	<u>Tadahiko</u> <u>Murata</u> , Daiki Masui	Designing simulated annealing and evolutionary algorithms for estimating attributes of residents from statistics	Proc. of IEEE International Conference on Evolutionary Computation (Sendai, Japan, May 25-28, 2015)	-	-	2476-2481	平成 27 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
26	Ricardo Navarro, <u>Tadahiko Murata</u> , Rafael Facon, Kim Chyon Hae	A generic niching framework for variable mesh optimization	Proc. of IEEE International Conference on Evolutionary Computation (Sendai, Japan, May 25-28, 2015)	-	-	1994-2001	平成 27 年
27	<u>Tadahiko Murata</u> , Naoki Kasatani	A Microsimulation Tool for Airport Selection using Public Data on the Web	The Review of Socionetwork Strategies	8	2	85-99	平成 26 年
28	<u>Tadahiko Murata</u> , Naoki Kasatani	Airport Selection from Multiple Airports Using Social Awareness Approach	Proc. of IEEE International Conference on Awareness Science and Technology (Paris, France, Oct. 29-30, 2014)	-	-	6 pages	平成 26 年
29	<u>Tadahiko Murata</u> , Daiki Masui	Estimating Agent' Attributes Using Simulated Annealing from Statistics to Realize Social Awareness	Proc. of IEEE International Conference on System, Man & Cybernetics: SMC 2014 (San Diego, USA, Oct. 5-8, 2014)	-	-	717-722	平成 26 年
30	柘井大貴、 <u>村田忠彦</u>	統計データとの誤差最小化のための SA によるエージェント属性復元	計測自動制御学会第 7 回社会システム部会研究会資料 (小樽、9 月 8-9 日、2014)	-	-	47-52	平成 26 年
31	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	エージェントシミュレーションによる公的年金制度における所得代替率に関する研究	計測自動制御学会第 7 回社会システム部会研究会資料 (小樽、9 月 8-9 日、2014)	-	-	21-26	平成 26 年
32	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	マイノリティゲームにおける効率性の周期の分析	計測自動制御学会第 7 回社会システム部会研究会資料 (小樽、9 月 8-9 日、2014)	-	-	15-20	平成 26 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
33	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	非対称情報化の市場におけるシグナルに関するエージェントベースシミュレーションによる研究	システム制御情報学会論文誌	27	7	309-318	平成 26 年

小田秀典 (宗兵衛)

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
34	Nick Feltovich, <u>Sobei H. Oda</u>	Effect of Matching Mechanism on Learning in Games Played Under Limited Information	Pacific Economic Review	19	3	260-277	平成 26 年

尾崎祐介

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
35	<u>Yusuke Osaki</u> , Keith Pong Wong, Long Yi	Hedging and the competitive firm under ambiguous price and background risk	Bulletin of Economic Research	-	-		平成 28 年
36	Yoichiro Fujii, Mahito Okura, <u>Yusuke Osaki</u>	Regret and rejoicing effects on mixed insurance	Economic Modelling	58	-	126-132	平成 28 年
37	Masatomo Akita, <u>Yusuke Osaki</u>	Optimal penalty and accounting policy	Applied Economics	48	-	5292-5299	平成 28 年
38	<u>尾崎祐介</u>	曖昧性が資産価格に与える影響の考察	大阪産業大学経済論集	17	-	19-32	平成 28 年
39	<u>尾崎祐介</u> 、 <u>小川一仁</u> 、 <u>後藤達也</u>	高次リスク回避と高次リスク回避度	大阪産業大学経済論集	15	2/3	75-88	平成 26 年
40	Hideki Iwaki, <u>Yusuke Osaki</u>	The dual theory of the smooth ambiguity model	Economic Theory	56	2	275-289	平成 26 年
41	<u>尾崎祐介</u> 、 <u>藤井陽一朗</u>	不確実性が貯蓄に与える影響:予備的貯蓄の理論的考察	大阪産業大学経済論集	15	1	31-43	平成 26 年

潘俊毅

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
42	<u>Junyi Shen</u> , <u>Hiromasa Takahashi</u>	The Tangibility Effect of Paper Money and Coins in an Investment Experiment	Economics and Business Letters	6	1	1-5	平成 29 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
43	Ping Gao, <u>Junyi Shen</u>	An Empirical Analysis on the Determinants of Overweight and Obesity in China	Applied Economics	49	20	1923-1936	平成 29 年
44	Yaling Liang, <u>Junyi Shen</u>	Subjective Well-being and Its Determinants in China: An Empirical Study Based on Survey Data	Research in Applied Economics	8	3	1-18	平成 28 年
45	<u>Hiromasa Takahashi</u> , <u>Junyi Shen</u> , <u>Kazuhito Ogawa</u>	An Experimental Examination of Compensation Schemes and Level of Effort in Differentiated Tasks	Journal of Behavioral and Experimental Economics	61	1	12-19	平成 28 年
46	中島孝子、森重健一郎、 <u>瀧俊毅</u> 、古井辰郎、西條辰義	産科医不足のため分娩維持が困難な地域公立病院における費用便益分析	国民経済雑誌	212	5	31-46	平成 27 年
47	Nobuko Kanaya, <u>Hiromasa Takahashi</u> , <u>Junyi Shen</u>	The market share of nonprofit and for-profit organizations in the Quasi-market: Japan's long-term care services market	Annals of Public and Cooperative Economics	86	2	245-266	平成 27 年
48	<u>Junyi Shen</u> , <u>Kazuhito Ogawa</u> , <u>Hiromasa Takahashi</u>	Examining the Tradeoff Between Fixed Pay and Performance-Related Pay: A Choice Experiment Approach	Review of Economic Analysis	6	2	119-131	平成 26 年
49	<u>Junyi Shen</u> , Xiangdong Qin	Cooperation, trust, and economic development: An experimental study in China	Pacific Economic Review	19	4	423-438	平成 26 年

奥井亮

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
50	Qingfeng Liu, <u>Ryo Okui</u> , Arihiro Yoshimura	Generalized Least Squares Model Averaging	Econometric Reviews	35	8-10	1692-1752	平成 28 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
51	<u>Ryo Okui</u>	Asymptotically Unbiased Estimation of Autocovariances and Autocorrelations with Panel Data in The Presence of Individual and Time Effects	Journal of Time Series Econometrics	6	2	129-181	平成 26 年

高橋広雅

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
52	<u>Junyi Shen,</u> <u>Hiromasa</u> <u>Takahashi</u>	The Tangibility Effect of Paper Money and Coins in an Investment Experiment	Economics and Business Letters	6	1	1-5	平成 29 年
53	Takehiro Ito, <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa,</u> Akihiro Suzuki, <u>Hiromasa</u> <u>Takahashi</u> and Toru Takemoto	Contagion of Self-Interested Behavior: Evidence from Group Dictator Game Experiments	German Economic Review	17	4	425-437	平成 28 年
54	<u>Hiromasa</u> <u>Takahashi,</u> <u>Junyi Shen,</u> <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa</u>	An Experimental Examination of Compensation Schemes and Level of Effort in Differentiated Tasks	Journal of Behavioral and Experimental Economics	61	1	12-19	平成 28 年
55	鈴木明宏、伊藤健宏、 <u>小川一仁、高橋広雅、竹本亨</u>	後続実験における意思決定に先行実験が与える影響 —一方的最後通牒ゲーム実験による分析—	山形大学紀要 (社会科学)	46	2	39-44	平成 28 年
56	鈴木明宏、 <u>高橋広雅、竹本亨、西平直史、小川一仁</u>	Easy Economic Experiment System を用いた経済実験の教育効果: 囚人のジレンマと協調ゲーム	山形大学紀要 (社会科学)	46	1	1-29	平成 27 年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
57	Nobuko Kanaya, <u>Hhiromasa Takahashi</u> , Junyi Shen	The market share of nonprofit and for-profit organizations in the Quasi-market: Japan's long-term care services market	Annals of Public and Cooperative Economics	86	2	245-266	平成 27 年
58	Junyi Shen, <u>Kazuhito Ogawa</u> , <u>Hhiromasa Takahashi</u>	Examining the Tradeoff Between Fixed Pay and Performance-Related Pay: A Choice Experiment Approach	Review of Economic Analysis	6	2	119-131	平成 26 年
59	高橋広雅	公共資本蓄積ゲームにおける複数均衡	創価経済論集	43	-	1-14	平成 26 年

<図書>

小川一仁

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
60	小川一仁、川越敏司、佐々木俊一郎	『実験マクロ経済学』	東洋経済新報社	平成 26 年	207

村田忠彦

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
61	Shigeru Obayashi, Carlo Poloni, <u>Tadahiko Murata</u>	2015 IEEE Congress on Evolutionary Computation Proceedings"	IEEE	平成 27 年	3425

瀋俊毅

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
62	瀋俊毅、(with 下村研一・大和毅彦)	『社会関係資本の機能と創出：効率的な組織と社会』第 6 章「出身地の違いが市場取引に与える影響－中国における相対交渉実験による検証」清水和巳・磯辺剛彦編著 西條辰義監修	勁草書房	平成 27 年	-
63	兔内祥子、 <u>瀋俊毅</u>	『実験が切り開く 21 世紀の社会科学』第 5 章「われわれの価値評価は信用できるのか？－アンカリング効果の実験」西條辰義・清水和巳編著	勁草書房	平成 26 年	240

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

奥井亮

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
64	奥井亮、川口大司、古沢泰治	『進化する経済学の実証分析, 経済セミナー増刊』、「鼎談: 実証分析が切り拓く経済学の未来」	日本評論社	平成 28 年	2-12
65	奥井亮	『日本労働研究雑誌』No. 657、「固定効果と変量効果」	-	平成 27 年	6-10

<学会発表>

小川一仁

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
66	小川一仁	経済教育学会	流通科学大学	平成 28 年 9 月	「実験」を通じた複眼的思考の育て方
67	Hiomasa Takahashi, Junyi Shen, Kazuhito Ogawa	実験経済学ワークショップ (ポスター報告)	京都大学	平成 27 年 7 月	Gender-specific Reference Dependent Preferences in the Experimental Trust Game
68	小川一仁	数理社会学会	久留米大学	平成 27 年 3 月	数理社会学会ワンステップセミナー
69	Kazuhito Ogawa, Hiromasa Takahashi, Hideo Futamura	The 18th Asia Pacific Symposium on Intelligent and Evolutionary Systems	Nanyang Technological University, Singapore	平成 26 年 11 月	A Choreographer Leads the Pareto Efficient Equilibrium in the Three-Person Network Externality Games: Experimental Evidence
70	Kazuhito Ogawa with Tatsuhiro Shichijo, Takao Kusakawa	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics 第1回	関西大学	平成 26 年 8 月	Non-anonymous Donation Improves Social Welfare: a Dictator Game Experiment

本西泰三

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
71	本西泰三	日本経済政策学会 関西部会 2014 年度大会	関西大学	平成 27 年 3 月	Risk Aversion and the Great East Japan Earthquake

小林創

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
72	Jieyi Duan, Hajime Kobayashi, Takao Kusakawa, Tatsuyoshi Saijo, and Tatsuhiro Shichijo	Asian-Pacific meeting of Economic Science Association	-	平成 29 年 2 月	Cooperation in Prisoner's Dilemma by Letting Bygones Be Bygones: An Overlapping Generations Experiment

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
73	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	2016 North American meetings of the Economic Science Association	-	平成28年11月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
74	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	2016 North American meetings of the Economic Science Association	-	平成28年11月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
75	Jieyi Duan, <u>Hajime Kobayashi,</u> Takao Kusakawa, Tatsuyoshi Saijo, and <u>Tatsuhiro Shichiho</u>	第20回実験社会科学コンファレンス	同志社大学	平成28年10月	Cooperation in Prisoner's Dilemma by Letting Bygones Be Bygones: An Overlapping Generations Experiment
76	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	2016 Asian Meeting of Econometric Society	-	平成28年8月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
77	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	2016 Asian Meeting of Econometric Society	-	平成28年8月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
78	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations	東京大学	平成28年3月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
79	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichi-jo,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	ゲーム理論ワークショップ 2016	東京大学	平成 28 年 3 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
80	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichi-jo,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations	大阪大学	平成 27 年 12 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
81	<u>Hajime Kobayashi,</u> Katsunori Ohta, Tadashi Sekiguchi	2015 World Congress of Econometric Society	-	平成 27 年 8 月	Repeated Partnerships with Decreasing Returns
82	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichi-jo,</u> and Takashi Shimizu	Kyoto University and Kansai University Joint Workshop on Experimental Economics	京都大学	平成 27 年 7 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
83	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichi-jo,</u> and Takashi Shimizu	理論・計量経済学セミナー	大阪府立大学	平成 27 年 6 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
84	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichi-jo,</u> and Takashi Shimizu	ミクロ経済学・ゲーム理論研究会	京都大学	平成 27 年 5 月	Price and Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
85	<u>小林創</u> 、 <u>七條達弘</u> 、 <u>鹿野繁樹</u> 、 <u>山川敬史</u> 、 <u>太田勝憲</u> 、 <u>西條辰義</u>	Contract Theory Workshop	立命館大学	平成 27 年 2 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
86	<u>小林創</u> 、 <u>七條達弘</u> 、 <u>鹿野繁樹</u> 、 <u>山川敬史</u> 、 <u>太田勝憲</u> 、 <u>西條辰義</u>	第 3 回京都大学実験経済学ワークショップ	京都大学	平成 27 年 1 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
87	<u>小林創</u> 、 <u>七條達弘</u> 、 <u>山川敬史</u> 、 <u>太田勝憲</u> 、 <u>西條辰義</u>	ミクロ経済学・ゲーム理論ワークショップ	京都大学	平成 26 年 12 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
88	<u>小林創</u> 、 <u>七條達弘</u> 、 <u>鹿野繁樹</u> 、 <u>山川敬史</u> 、 <u>太田勝憲</u> 、 <u>西條辰義</u>	第 20 回 DC コンファレンス	福岡大学	平成 26 年 10 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
89	Koji Abe, <u>Hajime Kobayashi</u> , and Hideo Suehiro	2014 North American meetings of the Economic Science Association	-	平成 26 年 10 月	Experiments on the Emergence of Leadership in Teams
90	<u>小林創</u> 、 <u>七條達弘</u> 、 <u>鹿野繁樹</u> 、 <u>山川敬史</u> 、 <u>太田勝憲</u> 、 <u>西條辰義</u>	第 58 回 数理社会学会大会	日本女子体育大学	平成 26 年 8 月	不完全公的観測を伴う繰り返しゲームにおける情報蓄積の効果
91	Koji Abe, <u>Hajime Kobayashi</u> , and Hideo Suehiro	2014 European meetings of the Econometric Society	-	平成 26 年 8 月	Experiments on the Emergence of Leadership in Teams

長久領壺

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
92	<u>Ryoichi Nagahisa</u> , Eiichi Miyagawa, Koichi Suga	The 14th SAET Conference	Waseda University	平成 26 年 8 月	An Axiomatic Approach to the Design for Moral Codes

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
93	<u>Ryoichi Nagahisa</u> , Tomoyuki Kamo	The 12th Meeting of Society for Social Choice and Welfare	Boston College, USA	平成 26 年 6 月	Arrovian Social Choice with Psychological Thresholds
94	<u>Ryoichi Nagahisa</u> , Tomoyuki Kamo	The 12th Meeting of Society for Social Choice and Welfare	Boston College, USA	平成 26 年 6 月	Acyclic Rational Choice with Indifference-Transitivity

座主祥伸

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
95	<u>座主祥伸</u>	日本法と経済学会	駒沢大学	平成 26 年 7 月	担保に関する法制度の相違と外部ファイナンスへの効果
96	<u>Yoshinobu Zasu</u>	Finance and Economics Conference 2014	Marriott Hotel, Munich, Germany	平成 26 年 8 月	Legal Difference Regarding Inside Collateral

村田忠彦

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
97	柘井大貴、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料	グアム	平成 29 年 3 月	市民属性の合成手法における年齢交換による誤差最小化
98	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料	グアム	平成 29 年 3 月	基盤地図情報による合成した世帯構成への位置情報の付加
99	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会第 12 回社会システム部会研究会資料	グアム	平成 29 年 3 月	家族類型と世帯内の役割を考慮した SA 法による日本全体の世帯の合成
100	<u>Daiki Masui</u> , <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3364: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 16	Salt Lake City, USA	平成 28 年 11 月	Households Generation for Agent-Based Social Simulations

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
101	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3364: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 16	Salt Lake City, USA	平成 28 年 11 月	Accelerating Reproducible Social Simulations by GPGPU
102	Nisuo Du, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3364: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 16	Salt Lake City, USA	平成 28 年 11 月	Nation Wide Pension Simulation by Household and Prefecture
103	<u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 社会システム部会 第 10 回研究会	大濱信泉記 念館、沖縄 県石垣市	平成 28 年 3 月	大規模社会シミュレ ーションの課題と展望
104	濱口祐実、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 10 回社会シス テム部会研究会資 料、pp. 99-102	石垣島	平成 28 年 3 月	大学入学希望者学力評 価テストの複数回実施 による合格者決定方法
105	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 10 回社会シス テム部会研究会資 料、pp. 65-72	石垣島	平成 28 年 3 月	公的年金制度における 都道府県別の所得代替 率と世帯タイプの関係 に関する研究
106	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u> 、 <u>栢井大貴</u>	計測自動制御学会 第 10 回社会シス テム部会研究会資 料、pp. 49-54	石垣島	平成 28 年 3 月	並列計算を用いた SA 法 による大規模世帯の復 元
107	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 10 回社会シス テム部会研究会資 料、pp. 21-28	石垣島	平成 28 年 3 月	Agent-Based Simulation を用いた消 費税増税の所得階層へ の影響についての分析
108	<u>Tadahiko Murata</u>	The Fifth International Conference on Fuzzy and Neural Computing (FANCCO 2015)	Hyderabad, India	平成 27 年 12 月	Evolutionary Fuzzy Systems - History and Recent Developments

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
109	Yumi Hamaguchi, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Influence on Candidates by Reforming Entrance Examinations for Universities in Japan
110	Syo Sugiura, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Agent Simulation for Analyzing An Income Gap under A Consumption Tax Increase
111	Daiki Masui, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Comparing Households in Artificial Population for Veryfying Accuracy of Reconstruction Method
112	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Reproducible Simulation Model Using CPU and GPU
113	Du Nisuo, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 2439: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC 15	Austin, USA	平成 27 年 11 月	Income Replacement By Prefecture In Japanese Pension System

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
114	<u>Tadahiko Murata</u>	2015 International Workshop on Complex Systems and Their Modeling, Control, Scheduling, and Security Management	Macau, China	平成 27 年 10 月	Social Simulation Using/Creating Big Data
115	柘井大貴、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 9 回社会システム 部会研究資料	神奈川	平成 27 年 8 月	統計データからの人口 データ復元における世 帯の比較手法の提案と 復元精度の検証
116	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 9 回社会システム 部会研究資料	神奈川	平成 27 年 8 月	異種計算機環境におけ る再現性のあるシミュ レーションモデルの提 案
117	濱口祐実、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 9 回社会システム 部会研究資料	神奈川	平成 27 年 8 月	Agent-Based Simulation を用いた入 試制度改革による合格 者の変化
118	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 9 回社会システム 部会研究資料	神奈川	平成 27 年 8 月	消費税増税による経済 成長及び所得分布への 影響の ABM を用いた分 析
119	柘井大貴、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 8 回社会システム 部会研究会資料、pp.167-172	宮古島	平成 27 年 3 月	エージェント属性復元 における Simulated Annealing を用いた世 帯構成の最適化
120	杜逆索、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学 会第 8 回社会シス テム部会研究会資 料、pp.163-166	宮古島	平成 27 年 3 月	公的年金制度における 都道府県別の所得代替 率に関する研究
121	杉浦翔、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 8 回社会システム 部会研究会資料、pp.159-162	宮古島	平成 27 年 3 月	エージェントシミュレ ーションを用いた消費 税増税による経済成長 への影響の分析
122	原田拓弥、 <u>村田忠彦</u>	計測自動制御学会 第 8 回社会システム 部会研究会資料、pp.51-60	宮古島	平成 27 年 3 月	General-Purpose Computation on GPUs を 用いた再現性のある Agent-Based Simulation の高速化
123	柘井大貴、 <u>村田忠彦</u> (構想, 執筆, シミュレーション)	進化計算学会進化 計算シンポジウム 2014 講演論文集、 8 pages	広島	平成 26 年 12 月	統計データを用いたエ ージェント属性生成に おける誤差最小化のた めの進化計算手法

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
124	<u>Tadahiko Murata</u> , Du Nisuo	International Conference on Computational and Financial Econoetrics	Pisa, Italy	平成 26 年 12 月	Income Replacement Ratio for Varipous Households in National Pension Program in Japan
125	Syo Sugiura, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Agent Simulation for Economic Growth Under A Comsumtion Tax Increase in Japan
126	Daiki Masui, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Reconstruct of Agents' Attributes by Simulated Annealing for Minimizing Errors from Statistics
127	Takuya Harada, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Speed Up Large-Scale and Multi-Trial Agent-Based Simulation Using GPGPU
128	Du Nisuo, <u>Tadahiko Murata</u>	Booth 3939: IEEE/ACM International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage and Analysis: SC14. 研究展示	New Orleans, USA	平成 26 年 11 月	Income Replacement Ration and Marital Relationship in Pension System Using Agent Simulation

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

小田秀典 (宗兵衛)

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
129	Yan Zhou, Masashi Kasaki, and <u>Sobei H. Oda</u>	Consciousness and Intention in Economics and Philosophy	Kyoto Sangyo University	平成 27 年 12 月	An experimental economics approach to the Knobe effect
130	和泉悠、笠木雅 史、周艶、 <u>小田宗 兵衛</u>	2015 年度哲学若 手研究者フォーラ ム	国立オリン ピック記念 青少年総合 センター	平成 27 年 7 月	実験哲学と言語哲学： 確定記述と作られた文 化的差異
131	Masashi Kasaki, Yan Zhou, and <u>Sobei H. Oda</u>	6th Conference of Experimental Philosophy Group UK: Joining Forces of Philosophy and the Empirical Sciences to Tackle Social Injustices (ポス ター発表)	University of Nottingham	平成 27 年 6 月	The Knobe Effect in Japanese: How Intentionality Judgements are (not) Affected by Cultural Differences
132	Yan Zhou, Masashi Kasaki, and <u>Sobei H. Oda</u>	6th Conference of Experimental Philosophy Group UK: Joining Forces of Philosophy and the Empirical Sciences to Tackle Social Injustices	University of Nottingham	平成 27 年 6 月	The Knobe Effect reconsidered: Uncertainty, Expectation and Relativity in the judgment of intentionality
133	Toshiaki Akinaga, Yan Zhou, and <u>Sobei H. Oda</u>	the 21st International Conference on Computing in Economics and Finance (CEF2015)	National Chengchi University , Taipei, Taiwan	平成 27 年 6 月	How Monetary Rewards Dominate Subjects' Self-Satisfaction of Winning a Game
134	Yan Zhou, Masashi Kasaki, and <u>Sobei H. Oda</u>	the 21st International Conference on Computing in Economics and Finance (CEF2015)	National Chengchi University , Taipei, Taiwan	平成 27 年 6 月	An experimental economics approach to the Knobe effect

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
135	Haron Hasnah, <u>Sobei H. Oda</u>	International Conference on Management Hospitality & Tourism, and Accounting (IMHA) 2014	Grand Royal Panghegar Hotel and Convention in Bandung, West Java, Indonesia.	平成 26 年 9 月	Ethics and Corporate Social Responsibility of Smes in Japan -Lessons Learnt

尾崎祐介

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
136	Hideki Iwaki, Yusuke Osaki,	The 4th East Asia RMI Insurance Workshop	KonKuk University , Seoul, Korea	平成 29 年 1 月	Comparative Statics and Portfolio Choices under the Phantom Decision Model
137	Mahito Okura, Yoichiro Fujii, <u>Yusuke Osaki</u>	The Third East Asia RMI Insurance Workshop	Feng Chia University , Taichung, Taiwan	平成 28 年 1 月	Superior and Inferior Goods in an Insurance Market under Regret
138	Yoichiro Fujii, Hideki Iwaki, <u>Yusuke Osaki</u>	The Third World Risk and Insurance Economics Congress	Ludwig-Max imilians-U niversitae t (LMU Munich)	平成 27 年 8 月	An Equilibrium Asset Pricing Model under Ambiguity
139	Yoichiro Fujii, Mahito Okura, <u>Yusuke Osaki</u>	The Third World Risk and Insurance Economics Congress	Ludwig-Max imilians-U niversitae t (LMU Munich)	平成 27 年 8 月	Regret and Rejoicing Effects on Mixed Insurance
140	<u>尾崎祐介</u> 、Kit Pong Wong、Long Yi	第 23 回日本フ ィナンス学会	東京大学	平成 27 年 6 月	Hedging and the Competitive Firm under Ambiguous Price and Background Risk
141	<u>Yusuke Osaki</u> , Yoichiro Fujii, Mahito Okura	The Second East Asia RMI Insurance Workshop	Kyoto Sangyo University	平成 27 年 1 月	Regret Aversion and Demand for Mixed Insurance
142	<u>尾崎祐介</u>	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics 第 2 回	関西大学	平成 26 年 10 月	高次リスク回避度の実 験—最近の研究動向に ついて—
143	<u>尾崎祐介</u>	日本経営財務研究 学会第 38 回全国 大会	明治大学	平成 26 年 10 月	Optimal Penalty and Accounting Policy
144	<u>尾崎祐介</u>	日本経営財務研究 学会第 1 回ファイ ナンスキャンプ	六甲スカイ ・ヴィラ	平成 26 年 7 月	Portfolio Choice and Ambiguous Background Risk

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
145	Yoichiro Fujii, Mahito Okura, and <u>Yusuke Osaki</u>	2014 Annual Conference of Asia Pacific Risk and Insurance Association	Moscow State University	平成 26 年 7 月	Regret Aversion and Demand for Mixed Insurance
146	<u>尾崎祐介</u> 、Harris Schlesinger	第 22 回日本ファイ ナンス学会	中央大学	平成 26 年 6 月	Portfolio Choice and Ambiguous Background Risk

瀧俊毅

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
147	<u>瀧俊毅</u>	-	北京大学	平成 27 年 12 月	Gender-specific reference dependent preference in the experimental trust game
148	<u>Hiromasa Takahashi, Junyi Shen, Kazuhito Ogawa</u>	実験経済学ワーク ショップ (ポスタ ー報告)	京都大学	平成 27 年 7 月	Gender-specific Reference Dependent Preferences in the Experimental Trust Game
149	<u>瀧俊毅</u>	-	南洋理工大 学	平成 27 年 4 月	An experimental examination of compensation schemes and level of effort in differentiated tasks
150	<u>瀧俊毅</u>	-	ケープタウ ン大学	平成 27 年 2 月	Cooperation, trust, and economic development: Experimental evidence in China
151	<u>瀧俊毅</u>	The 2nd Hanyang-Kobe-Nan yang Conference in Economics (司 会・討論者)	神戸大学	平成 26 年 5 月	

七條達弘

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
152	Jieyi Duan, <u>Hajime Kobayashi</u> , Takao Kusakawa, Tatsuyoshi Saijo, and <u>Tatsuhiro Shichijo</u>	Asian-Pacific meeting of Economic Science Association	-	平成 29 年 2 月	Cooperation in Prisoner's Dilemma by Letting Bygones Be Bygones: An Overlapping Generations Experiment

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
153	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	2016 North American meetings of the Economic Science Association	-	平成 28 年 11 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
154	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	2016 North American meetings of the Economic Science Association	-	平成 28 年 11 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
155	Jieyi Duan, <u>Hajime Kobayashi,</u> Takao Kusakawa, Tatsuyoshi Saijo, and <u>Tatsuhiro Shichiho</u>	第 20 回実験社会科学コンファレンス	同志社大学	平成 28 年 10 月	Cooperation in Prisoner's Dilemma by Letting Bygones Be Bygones: An Overlapping Generations Experiment
156	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	2016 Asian Meeting of Econometric Society	-	平成 28 年 8 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
157	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	2016 Asian Meeting of Econometric Society	-	平成 28 年 8 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
158	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations	東京大学	平成 28 年 3 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
159	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	ゲーム理論ワークショップ 2016	東京大学	平成 28 年 3 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
160	<u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> Shigeki Kano, Katsunori Ohta, Tatsuyoshi Saijo, and Takafumi Yamakawa	The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations	大阪大学	平成 27 年 12 月	Experiments on Repeated Games with Infrequent Monitoring
161	<u>Tatsuhiro Shichiho,</u> Takao Kusakawa, Takehito Masuda, Emiko Fukuda, Tatsuyoshi Saijo	Kyoto University and Kansai University Joint Workshop on Experimental Economics	京都大学	平成 27 年 7 月	A Deposit-refund Scheme for the Diffusion of Goods with Network Externalities
162	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	Kyoto University and Kansai University Joint Workshop on Experimental Economics	京都大学	平成 27 年 7 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
163	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	理論・計量経済学セミナー	大阪府立大学	平成 27 年 6 月	Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach
164	Kazuya Kamiya, <u>Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichiho,</u> and Takashi Shimizu	ミクロ経済学・ゲーム理論研究会	京都大学	平成 27 年 5 月	Price and Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
165	<u>小林創、七條達弘</u> 、鹿野繁樹、山川敬史、太田勝憲、西條辰義	Contract Theory Workshop	立命館大学	平成 27 年 2 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
166	<u>小林創、七條達弘</u> 、鹿野繁樹、山川敬史、太田勝憲、西條辰義	第 3 回京都大学実験経済学ワークショップ	京都大学	平成 27 年 1 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
167	<u>小林創、七條達弘</u> 、山川敬史、太田勝憲、西條辰義	ミクロ経済学・ゲーム理論ワークショップ	京都大学	平成 26 年 12 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
168	<u>小林創、七條達弘</u> 、鹿野繁樹、山川敬史、太田勝憲、西條辰義	第 20 回 DC コンファレンス	福岡大学	平成 26 年 10 月	Information Accumulation in Repeated Games with Imperfect Public Monitoring: Theory and Experiment
169	Toru Hokari, <u>Tatsuhiko Shichijo</u>	SSK International Conference on Distributive Justice in Honor of Professor William	Thomson Hotel Ibis Seoul Myeong-Don, Korea	平成 26 年 10 月	Subgame-perfect Equilibria in An infinite-horizon Network Formation Game
170	藤山英樹、 <u>七條達弘</u>	第 58 回 数理社会学会大会	日本女子体育大学	平成 26 年 8 月	SNS 内におけるネットワーク構造と行為(日記執筆)の共進化
171	<u>小林創、七條達弘</u> 、鹿野繁樹、山川敬史、太田勝憲、西條辰義	第 58 回 数理社会学会大会	日本女子体育大学	平成 26 年 8 月	不完全公的観測を伴う繰り返しゲームにおける情報蓄積の効果
172	<u>Kazuhito Ogawa Tatsuhiko Shichijo</u> , Takao Kusakawa	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics 第 1 回	関西大学	平成 26 年 8 月	Non-anonymous Donation Improves Social Welfare: a Dictator Game Experiment

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
173	<u>Tatsuhiko Shichijo</u> , Takao Kusakawa, Takehito Masuda, Emiko Fukuda, Tatsuyoshi Saijo	2014 ESA International Meetings	Honolulu, Hawaii, USA	平成 26 年 6 月	Designing A Mechanism to Cope with ex post Coordination Failure

奥井亮

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
174	<u>Ryo Okui</u>	Japan-Korea Allied Conference in Econometrics	東京	平成 28 年 11 月	Confidence Set for Group Membership
175	<u>Ryo Okui</u>	Centre for Panel Data Analysis (PanDA) and 9th York Econometrics Symposium	University of York	平成 28 年 7 月	Confidence Set for Group Memberships
176	Yoshiaki Ogura, <u>Ryo Okui</u> , Yukiko Umeno Saito	The Financial Intermediation Research Society (FIRS) Conference	Lisobn	平成 28 年 6 月	Network - motivated Lending Decisions
177	<u>Ryo Okui</u> , and Takahide Yanagi	UvA-Econometrics Panel Data Workshop	Amsterdam	平成 28 年 3 月	Panel data analysis with heterogeneous dynamics
178	<u>Ryo Okui</u> , and Takahide Yanagi	Cemmap seminar	University College London	平成 27 年 11 月	Panel data analysis with heterogeneous dynamics
179	<u>Ryo Okui</u> , Sokbae Lee, and Yoon-Jae Whang	計量経済学ワークショップ	慶應義塾大学	平成 27 年 10 月	Doubly Robust Uniform Confidence Band for The Conditional Average Treatment Effect Function
180	<u>Ryo Okui</u> , and Takahide Yanagi	Seminar at Tinbergen Institute	Tinbergen Institute, Amsterdam	平成 27 年 9 月	Analysis with Heterogeneous Dynamics
181	<u>Ryo Okui</u> , and Takahide Yanagi	Econometric Society World Congress	Montreal	平成 27 年 8 月	Panel Data Analysis With Heterogeneous Dynamics
182	<u>Ryo Okui</u> , Sokbae Lee, and Yoon-Jae Whang	The Applied Statistics Workshop	東京大学	平成 27 年 7 月	Doubly Robust Uniform Confidence Band for the Conditional Average Treatment Effect Function

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
183	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	10th Netherlands Econometric Study Group Meeting	Maastricht University	平成 27 年 6 月	Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
184	<u>Ryo Okui</u>	日本経済学会春季 大会	新潟大学	平成 27 年 5 月	Misspecification in dynamic panel data models and model-free inferences
185	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	Princeton-QUT-SJ TU-SMU conference	Singapore Management University	平成 27 年 4 月	Panel Data Analysis with Heterogeneous Dynamics
186	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	Hitotsubashi-Sog ang Conference on Econometrics	Sogang University , Seoul	平成 26 年 12 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogeneous
187	Yoon-Jin Lee, <u>Ryo Okui</u> , and Mototsugu Shintani	EGC Seminars	Nanyang Technologi cal University , Singapore	平成 26 年 8 月	Asymptotic Inference for Dynamic Panel Estimators of Infinite Order Autoregressive Processes
188	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	Summer Workshop on Economic Theory (SWET2014)	小樽商科大 学	平成 26 年 8 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogeneous
189	<u>Ryo Okui</u> , and Takahide Yanagi	Mini-conference in Microeconomic s 2014 in Hakone	箱根	平成 26 年 6 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogenous
190	<u>Ryo Okui</u> , Takahide Yanagi	IAS Workshop on Advances in Microeconomic s	Hong Kong University of Science and Technology	平成 26 年 5 月	Dynamic Panel Data Analysis when the Dynamics are Heterogeneous

高橋広雅

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
191	<u>高橋広雅</u>	進化経済学会第 20 回大会	東京大学	平成 28 年 3 月	Reconsidering whether women are less selfish than men
192	<u>Hiromasa Takahashi, Junyi Shen, Kazuhito Ogawa</u>	実験経済学ワーク ショップ (ポスタ ー報告)	京都大学	平成 27 年 7 月	Gender-specific Reference Dependent Preferences in the Experimental Trust Game

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
193	高橋広雅	関西大学経済実験センター主催ワークショップ「日本における経済. 実験環境のコンソーシアム化をめざして」	関西大学	平成 27 年 3 月	携帯電話を用いた簡易経済実験システムについて
194	Kazuhito Ogawa, Hiromasa Takahashi, Hideo Futamura	The 18th Asia Pacific Symposium on Intelligent and Evolutionary Systems	Nanyang Technological University, Singapore	平成 26 年 11 月	A Choreographer Leads the Pareto Efficient Equilibrium in the Three-Person Network Externality Games: Experimental Evidence

川村哲也 (PD)

<雑誌論文>

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
195	Junho Yang, Tetsuya Kawamura, Kazuhito Ogawa	Experimental multimarket contact inhibits cooperation	Metroeconomica	67	1	21-43	平成 28 年

<図書>

	著者	図書名	出版社名	発表年	総ページ数
196	川村哲也	『人間行動と市場デザイン』第 5 章「指名競争入札における自治体の公平性がもたらす弊害-経済実験によるアプローチ-」西條辰義編	勁草書房	平成 28 年	232

<学会発表>

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
197	Tetsuya Kawamura	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 9 回)	関西大学	平成 28 年 12 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
198	Tetsuya Kawamura	高知工科大学フューチャーデザイン研究センター公開ワークショップ	高知工科大学	平成 28 年 10 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
199	Tetsuya Kawamura	11th Annual Australia New Zealand Workshop on Experimental Economics	University of Queensland, Brisbane (Australia)	平成 28 年 9 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
200	Tetsuya Kawamura	経済学・ゲーム理論セミナー	筑波大学	平成 28 年 2 月	Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games
201	Tetsuya Kawamura	CEE and RISS seminar series on experimental economics (第 6 回)	関西大学	平成 27 年 12 月	How to Promote Crowd Funding for R&D in New Sources of Energy -Evidence from Online Field Experiment-
202	Tetsuya Kawamura	Poster session in Kyoto University Workshop on Experimental Economics (with Applied Microeconomics Seminar)	京都大学	平成 27 年 9 月	How to Promote Crowd Funding for R&D in New Sources of Energy -Evidence from Online Field Experiment-

森知晴 (PD)

<雑誌論文>

	著者	論文名	掲載誌名	巻	号	ページ	発表年
203	森知晴、大竹文雄	期限付きキャッシュバック制度が退去行動に与える影響	季刊住宅土地経済	94		29-35	平成 26 年

<学会発表>

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
204	Tomoharu Mori	ESA Asia-Pacific Meeting	National Taiwan University	平成 29 年 2 月	Ambiguity aversion and framing effect in the insurance demand for low-probability losses
205	森知晴	第 6 回明治大学経済学コンファレンス	明治大学	平成 28 年 3 月	所得税と消費税の好みに関する選択実験
206	Hirofumi Kurokawa, Tomoharu Mori, and Fumio Ohtake	第 6 回明治大学経済学コンファレンス	明治大学	平成 28 年 3 月	A Choice Experiment on Taxes: Are Income and Consumption Taxes Equivalent?
207	大竹文雄、黒川博文、森知晴	The Osaka Workshop on Economics of Institution and Organization	大阪大学	平成 27 年 12 月	所得税と消費税の好みに対する選択実験
208	大竹文雄、黒川博文、森知晴	公共選択学会第 19 回大会	明海大学	平成 27 年 11 月	所得税と消費税の好みに対する選択実験

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

	著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
209	Tomoharu Mori, and <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa</u>	行動経済学会第9 回大会	近畿大学	平成27年11月	The Effect of Age, Gender, and Earned Income in the Trust Game: A Laboratory experiment in Japan
210	Tomoharu Mori, and <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa</u>	ESA European Meeting 2015	University of Heidelberg	平成27年9月	The Effect of Earned Income in the Trust Game: University Students vs. The Elderly
211	Tomoharu Mori, and <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa</u>	ESA World Meetings 2015	University of Technology, Sydney	平成27年7月	The Effect of Earned Income in the Trust Game: University Students vs. The Elderly
212	Tomoharu Mori, and <u>Kazuhito</u> <u>Ogawa</u>	Kyoto University Workshop on Experimental Economics	Kyoto University	平成27年7月	The Effect of Earned Income in the Trust Game: University Students vs. The Elderly
213	森知晴	第3回京都大学実 験経済学ワークシ ョップ	京都大学	平成27年2月	The Costs and Benefits of Control in the Field: A Field Experiment
214	森知晴	Contract Theory Workshop East	一橋大学	平成26年6月	Income, Giving, and Egalitarianism: A Real-effort Experiment in Japan
215	森知晴	住宅経済研究会	東海大学	平成26年4月	期限付きキャッシュバ ック制度が退去行動に 与える影響: 大阪市住 宅供給公社の事例
216	森知晴	関西労働研究会	大阪大学	平成26年11月	Income, Giving, and Egalitarianism: A real-effort Experiment in Japan
217	森知晴	CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics	関西大学	平成26年10月	期限付きキャッシュバ ック制度が退去行動に 与える影響: 大阪市住 宅供給公社の事例
218	森知晴	日本経済学会秋季 大会	西南学院大 学	平成26年10月	Income, Giving, and Egalitarianism: A Real-effort Experiment in Japan

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

著者	学会名	開催地	発表年月	発表標題
219 Tomoharu Mori	ESA International Conference	Honolulu, Hawaii, USA	平成 26 年 6 月	Income, Giving, and Egalitarianism: A Real-effort Experiment in Japan

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

[平成 26 年度]

<CEE Workshop>

URL : <http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t110032/CEEWS.html>

- ・第 1 回 関西大学経済実験センター ワークショップ
 テーマ：日本における経済実験環境のコンソーシアム化をめざして
 日時：平成 27 年 3 月 17 日（火）9 時 30 分～18 時 00 分
 平成 27 年 3 月 18 日（水）9 時 30 分～17 時 30 分
 場所：関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ、5 階経済実験センター実験室

<CEE and RISS Seminar Series>

URL : <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

- ・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 1 回)
 日時：平成 26 年 8 月 29 日（金）14 時 00 分～16 時 40 分
 場所：関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
 第 1 報告題目：The effect of market exchange on the devision of labour (with Kengo Kurosaka)
 第 2 報告題目：Non-anonymous donation improves social welfare: a dictator game experiment (with Tatsuhiro Shichijo, Takao Kusakawa)
- ・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 2 回)
 日時：平成 26 年 10 月 31 日（金）14 時 00 分～17 時 30 分
 場所：関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
 第 1 報告題目：高次リスク回避度の実験—最近の研究動向について—
 第 2 報告題目：サービス類型化と設計理論の構築に向けて：プロジェクトの紹介とこれまでの取り組み
 第 3 報告題目：期限付きキャッシュバック制度が退去行動に与える影響：大阪市住宅供給公社の事例
- ・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 3 回)
 日時：平成 27 年 1 月 10 日（金）14 時 00 分～16 時 10 分
 場所：関西大学 RISS 6 階マルチメディア・ラボ
 第 1 報告題目：Risk aversion and the Great East Japan Earthquake
 第 2 報告題目：未婚者の恋愛行動分析

<CEE Seminar>

URL : <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

- ・経済実験センター セミナー
 日時：平成 27 年 2 月 3 日（火）14 時 00 分～15 時 30 分
 場所：関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
 報告題目：It is not just confusion! Strategic uncertainty in an experimental asset market (joint work with Eizo Akiyama and Ryuichiro Ishikawa)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

[平成 27 年度]

<CEE International Conference>

URL : <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

- RISS 13th International Conference & CEE 1st International Conference (1 日目)
テーマ : Frontiers in Experimental Economics -Applications to Human Behavior in the Field, Organizations and Macroeconomic Phenomena-
日時 : 平成 27 年 7 月 11 日 (土) 13 時 00 分~18 時 00 分
場所 : 関西大学尚文館 7 階特別会議室
- RISS 13th International Conference & CEE 1st International Conference (2 日目)
テーマ : Introduction to the Project of RISS & CEE and Joint Research Opportunities
日時 : 平成 27 年 7 月 12 日 (日) 10 時 00 分~12 時 00 分
場所 : 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

<CEE and RISS Seminar Series>

URL : <http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

- CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 4 回)
日時 : 平成 27 年 6 月 12 日 (金) 14 時 00 分~16 時 10 分
場所 : 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
第 1 報告題目 : What is 'Fair' Distribution under Collaboration?: Evidences from Lab-Experiments
第 2 報告題目 : An axiomatic approach to the design of moral codes
- CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 5 回)
日時 : 平成 27 年 7 月 31 日 (金) 14 時 00 分~16 時 10 分
場所 : 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
第 1 報告題目 : The Ripples in the Growth of Swimmers
第 2 報告題目 : 被災地における高齢者の健康と選好- Convex Time Budget (CTB) 法による経済実験の結果から-
- CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第 6 回)
日時 : 平成 27 年 12 月 11 日 (金) 13 時 00 分~18 時 00 分
場所 : 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
第 1 報告題目 : Equity versus Equality: Experimental Analysis of Justice Rules
第 2 報告題目 : How does the effect of pre-play suggestions vary with group size? Experimental evidence from a threshold public-good game
第 3 報告題目 : How to Promote Crowd Funding for R&D in New Sources of Energy -Evidence from Online Field Experiment-
第 4 報告題目 : The Effect of Age, Gender, and Earned Income in the Trust Game: A Laboratory Experiment in Japan

<ランチミーティング>

- ランチミーティング(第 1 回)
日時 : 平成 27 年 7 月 1 日 (水) 12 時 20 分~13 時 20 分
場所 : 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ
概要 : 分析中の研究、研究アイデア、研究構想などを題材にした昼食時のミーティングを定期的実施し、研究者間の情報共有、共同研究のマッチングを図る。第 1 回ランチミーティングでは、川村 (PD) が京都大学の依田教授、経済実験センター長の小川准教授との共同研究で行っている次世代発電への募金に関するオンラインフィールド実験について報告する。
- ランチミーティング(第 2 回)
日時 : 平成 27 年 9 月 18 日 (金) 12 時 20 分~13 時 20 分
場所 : 関西大学 RISS6 階マルチメディア・ラボ

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

概要：分析中の研究、研究アイデア、研究構想などを題材にした昼食時のミーティングを定期的実施し、研究者間の情報共有、共同研究のマッチングを図る。第2回ランチミーティングでは、森（PD）の過去に実施した間接税と直接税の税の公平性に関するラボ実験について、その実験デザインと実験結果について意見交換を行った。また、長久教授のACIT選考に関する具体例について、参加者間で意見交換を行った。

・ランチミーティング(第3回)

日時：平成27年12月14日（金）12時20分～13時20分

場所：関西大学新関西大学会館南棟4階レストランルコロ

概要：平成28年度に実施予定のI市における特定健康診断に関するフィールド実験の実験デザインについて打ち合わせを行った。特定健康診断において、積極介入が必要とされる市民と、動機付け介入が必要とされる市民、それぞれに対して、受診率と修了率の向上をもたらす動機付けの方法について意見交換を行った。

[平成28年度]

<CEE International Conference>

・RISS 14th International Conference & CEE 2nd International Conference (1日目)

テーマ：Frontier Researches in Neuroscience and Network Studies: Messages for Future Researches in Social Science and Economic Policy Studies

日時：平成28年3月14日（火）13時00分～16時30分

場所：関西大学尚文館7階特別会議室

・RISS 14th International Conference & CEE 2nd International Conference (2日目)

テーマ：Symposium on Neuroscience and Molecular Communication

日時：平成28年3月14日（火）13時00分～16時40分

場所：関西大学尚文館7階特別会議室

<CEE and RISS Seminar Series>

URL：<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/research/index.html>

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第7回)

日時：平成28年7月28日（木）14時00分～16時10分

場所：関西大学 RISS6階マルチメディア・ラボ

第1報告題目：Voluntary disclosure does not promote the trust between investor and manager: An experimental study

第2報告題目：Playing Lowest Unique Integer Games

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第8回)

日時：平成28年10月18日（火）16時30分～17時30分

場所：関西大学 RISS6階マルチメディア・ラボ

報告題目：Hedging and the Competitive Firm under Ambiguous Price and Background Risk

・CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics (第9回)

日時：平成28年12月19日（月）13時00分～18時00分

場所：関西大学 RISS6階マルチメディア・ラボ

第1報告題目：Cognitive ability and human behavior in the experimental ultimatum games

第2報告題目：On the Roots of the Intrinsic Value of Decision Rights: Evidence from France and Japan

第3報告題目：Reconsidering whether women are less selfish than men: group gender composition matters in dictator games

・東大神経生化学セミナー/ 関西大学 RISS・CEE 共催セミナー

日時：平成29年3月17日（金）12時00分～13時00分

場所：医学部教育研究棟 13階 第8セミナー室 (Room1305)

報告題目：High-throughput, quantitative analysis of synaptic distributions in the neocortex

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

＜その他＞

- ・市民公開講座 第13回ひと・健康・未来シンポジウム 2016 浜松 ひと・健康・未来研究財団
日時：平成28年12月3日(土) 13時00分～16時30分
場所：アクトシティ浜松 コンgressセンター4F 41会議室
報告題目：高齢者・流動的知性・経済的意思決定
- ・西川町里山社会・文化研究所主催事業 関西大学による経済行動調査に関する中間成果発表会
日時：平成29年3月9日 16時00分～17時30分
場所：西川交流センターあいべ 4F会議室
報告題目：関西大学による経済行動調査成果中間報告

＜これから実施する予定のもの＞

実験社会科学カンファレンス
日時：平成29年10月21日、22日
場所：関西大学

＜その他＞

<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/experimentop/> にこれまでの経済実験実施データが記載されている。データ収集中のものもあるため、実験の内容については記載していない。

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

220 Tetsuya Kawamura, Kazuhito Ogawa, “Cognitive ability and human behavior in experimental ultimatum games” Riss discussion paper 2016

221 森知晴, 小川一仁, 「信頼ゲームにおける年齢・性別・所得獲得方法の影響」, Riss discussion paper 2016

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

なし

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

なし

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	11,762	5,762	6,000				
	研究費	19,508	9,004	6,474			4,030	
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,134	11,738	5,666			2,730	
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	28,407	16,844	9,223			2,340	
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	11,762	5,762	6,000	0	0	0	
	研究費	68,049	37,586	21,363	0	0	9,100	
総計	79,811	43,348	27,363	0	0	0	9,100	

※平成28年度は予定額

17 施設・装置・設備の整備状況(私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
経済政治研究所 「ソシオネットワーク 戦略研究センター」 (改造工事)	14年度	1,509㎡	31室	35	241,992千円	120,235千円	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) 該当なし				h h h h			
(研究設備) 該当なし				h h h h			
(情報処理関係設備) 経済実験ラボラトリデータ 管理システム	平成26年度	PYT158T2S TS-X8,OTL/R5 FG-90D-US 他	一式	18896 h h h h	12,000	6,000	

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	5,143	消耗品等	5,143
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	18	郵券代	18
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	562	一般出張旅費等	562
報 酬 ・ 委 託 料	7,509	情報機器関係委託業務費等	7,509
(雑 費)	47	雑費	47
計	13,279		13,279
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	50	事務補助	50
教育研究経費支出			
計	50		50
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	211	器具備品	211
図 書			
計	211		211
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	1,938	研究支援	1,938
研究支援推進経費			
計	1,938		1,938

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,233	消耗品等	1,233
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	95	郵券代	95
印 刷 製 本 費	222	印刷費	222
旅 費 交 通 費	2,171	一般出張旅費等	2,171
報 酬 ・ 委 託 料	4,941	報酬、業務委託費	4,941
(雑 費)	81	雑費	81
計	8,743		8,743
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	909	事務補助	909
教育研究経費支出			
計	909		909
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			学内 0人、学外 0人、外国 0人
ポスト・ドクター	7,752	研究支援	7,752
研究支援推進経費			学内 0人、学外 0人、外国 0人
計	7,752		7,752

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,477	消耗品等	1,477
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	471	郵券代等	471
印 刷 製 本 費	699	印刷費	699
旅 費 交 通 費	3,515	一般出張旅費等	3,515
報 酬 ・ 委 託 料	8,906	情報機器関係業務委託費等	8,906
(雑 費)	519		519
計	15,587		15,587
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	904	事務補助	904
教育研究経費支出			
計	904		904
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,824	器具備品	1,824
図 書			
計	1,824		1,824
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			学内 0人、学外 0人、外国 0人
ポスト・ドクター	7,752	研究支援	7,752
研究支援推進経費			学内 0人、学外 0人、外国 0人
計	7,752		7,752

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411035

学校法人名	学校法人 関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成		

平成 26 年度選定
「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書

別紙資料

- 資料 1 内部評価資料
資料 2 外部評価資料
資料 3 学外実験（山形県西川町）新聞記事

研究プロジェクトの進展状況チェックシート

(評価者)

プロジェクト名: 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成	
研究期間: 平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	研究代表者(評価責任者): 小川 一仁
評価対象期間: 平成 26 年 4 月 ~ 平成 27 年 9 月	評価日: 平成 27 年 9 月 24 日

上記の評価対象期間における本研究プロジェクトの研究進捗状況等は、以下のとおりである。

1. 研究組織について

① 研究プロジェクトを効率的・効果的に遂行するための責任ある研究体制となっているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトは、プロジェクトの採択と同時に制定された「関西大学経済実験センター運営内規」に基づき運営されている。当内規で、プロジェクトリーダーとプロジェクトメンバーとで構成される「経済実験センター推進委員会(以下「推進委員会」という。)」を議決機関として設置した。この推進委員会において、プロジェクトの事業、人事、予算執行等についての決定を行い、研究活動を実行する体制を取っている。また、経済実験室(ラボラトリ室)の設置に伴い、実験室利用規約を制定し、学内、学外の実験室利用(経済行動実験実施)に対する審査(倫理上の審査を含む)を行い、経済行動実験を実行する体制を取っている。】

□いいえ 【理由と対応策】

② 研究者間・研究チーム間の調整・連携はとられているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトは、研究チーム 4 班に分け、研究を推進している。A01 班(リーダー小川一仁)は、実験ラボの管理・運営を行い、学外者の実験実施要請に応える体制を取る。A02 班(リーダー松下敬一郎)は、高齢者個人の経済的意思決定を分析し、個人属性に関するアンケートを収集、A01 班と協力してデータベース化する。A03 班(リーダー小林創)は、他者との相互作用が存在する場合の高齢者の意思決定を分析し、A02 班のデータを援用しつつ、高齢者の行動のタイプ分けを行う。A04 班(リーダー村田忠彦)は、A02 班、A03 班が得たデータを基にエージェントをモデル化し、大規模計算機実験から政策実施前後の社会厚生の変化を分析する。プロジェクトは、平成 26 年 9 月に事業開始、平成 27 年 2 月から社会人向けの経済実験を開始した。実験回数を重ねるなかで、A01 班、A02 班、A03 班の研究連携を強めている。A04 班との連携は、27 年度は、A02 班、A03 班のデータ集約、データ分析の整理と同時進行で行うこととしているが、本格的な始動は、27 年度末からとなる。

プロジェクトメンバー間で、定期的に研究会(CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催し、メンバー間での研究情報交換と学外研究者との研究交流を図っている。また、随時、プロジェクトメンバー間でランチミーティングを実施、研究情報の交換、新規分野への研究推進に繋げている。】

□いいえ 【理由と対応策】

③ 研究支援体制は整っているか。

■はい 【状況について:

本研究プロジェクトへの研究支援体制は、母体となるソシオネットワーク戦略研究機構(以下「RISS」という。)の事務組織、ソシオネットワーク事務グループにより行われている。ソシオネットワーク事務グループは、専任事務職 2 名、研究支援スタッフ 4 名、定時事務職員 2 名が配置されており、本プロジェクトには、専任事務職 2 名(兼務)、専任研究支援スタッフ 1 名、専任定時職 1 名の

支援体制が取られており、この人員で、プロジェクトメンバーへの諸連絡、推進委員会事項、予算執行管理、プロジェクト広報(ホームページ作成)等の諸業務及び経済実験実施事項(参加者の募集、連絡、実験時の対応、報酬支払等)の諸業務に対応し、研究活動、実験実施の支援を行っている。

いいえ【理由と対応策】

④大学院学生・PD等を活用し、若手研究者の育成を行っているか。

■はい【状況について:

プロジェクト事業開始と同時(昨年10月)にPD1名を採用、本年4月に1名を採用し、計2名のPDで研究活動を実施している。

実験実施日程、国内外への研究出張等について、PDに配慮した研究実施体制を敷き、PD育成をフォローアップしている。それぞれのPDは、自己の研究テーマに即した経済実験を実施し、現在、実験データを収集している。今後、収集データの分析を行い、研究論文作成に繋げる。また、定期的に若手研究者を中心とした研究会(GEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics)を開催、PD、プロジェクトメンバー、学外研究者の研究推進の場を提供している。また、本年2月国際ワークショップ(CEE Workshop)では、海外研究者との研究討議で、新たな知識の獲得を図り、共同研究へ繋げる方策を取っている。また、随時、PDを中心とした、プロジェクトメンバー間でのランチミーティングを実施、率直な意見交換を行い、研究活動の活性化を図っている。

いいえ【理由と対応策】

⑤共同研究機関等との連携はとられているか。

■はい【状況について:

2015年3月のワークショップ(CEE Workshop)では、筑波大学、立命館大学の経済実験研究者との研究セミナーで、研究者間の連携を深めた。2015年7月に、本プロジェクトの母体のソシオネットワーク戦略研究機構「RISS」と共に、京都大学と国際会議(実験経済学国際ジョイントワークショップ)を開催、海外研究者との研究討議を行った。また、台湾政治大学のグループとは定期的に連絡を取っており、(2015年2月、6月に小川プロジェクトリーダーが台湾を訪問)、将来的な共同研究を模索している。まだ具体的な「形」にはなっていないが京都大学、高知工科大学と実験参加者のデータを融通し合い、日本発の国際的な実験経済学拠点にする構想も存在している。

いいえ【理由と対応策】

2.研究施設・設備等の利用について

①研究施設の整備、プロジェクトに適合した装置設備の整備、装置・設備の利用はなされているか。

■はい【状況について:

研究プロジェクトの研究施設は、母体となる「RISS」建物5F以下の研究・実験スペースが確保されている。

経済実験室 120.0 m² 経済実験室準備室 39.6 m² 経済実験センター研究室(2部屋) 19.8 m² 計 179.4 m²

この経済実験室において、社会人(高齢者)、学生参加者による「経済実験」を実施している。実験室の設備として、PCブース28席、OHP、プリンタ、メイン操作用PCを配置し、メイン操作用PCには、実験データ管理プログラムとして、「経済実験ラボ管理システム」が装填されている。また、遠隔地での経済実験用のタブレット端末PC30台が装備されている。

※経済実験室では、2014年度後半以降、学生は延べ999人、社会人延べ173人参加している。また稼働状況は、1ヵ月あたり、7.6セッションである。以上の稼働状況は他大学の同等設備と比較して、高頻度の利用である。

いいえ【理由と対応策】

3.研究計画の進捗(達成)状況、これまでの研究成果等について

①構想調書提出時(中間評価を終えた拠点では進捗状況報告書提出時)の計画と対比して、研究は進展しているか(達成度)

■はい 【状況について:

対比実験として実施している大学生向けの実験、開放型研究拠点の形成については、当初よりも研究状況は進展している。社会人向けの経済実験については、当初の予定から進捗が遅れている。これについては、以下の②、③に記載する。】

□いいえ 【理由と対応策】

②当初計画と差異が生じているか。

□生じていない

■生じている【理由と対応策:

社会人向けの経済実験参加者の獲得に苦心している。これまで、大学の社会人公開講座、スプリングフェスティバル、校友会総会等の催しで、参加者を募ってきたが、27年9月実施分からは、近郊住民に対し、ポスティングや吹田市市報への掲載(社会連携部の協力を得て)を行い、参加者獲得に注力する。また、28年度より実施予定の学外(遠隔地)での経済実験については、山形県西川町、鳥取県八頭町での実施に向け、松下教授、本西教授(共にプロジェクトメンバー)を中心に現地との交渉を進めている。】

③克服すべき問題点は生じているか。

□生じていない

■生じている【理由と対応策:

意思決定サポートをするシステムの設計には、より多くのデータとその分析が必要である。さらにモデル構築ためには、より幅広い年齢層(男女)の実験データが必要となり、実験参加者の確保が急務となっている。これまで、チラシ配布等のペーパーによる募集を中心に行ってきたが、より多数者へ周知を図るため、大学及びプロジェクトのホームページ、フェイスブック等のネットワークを利用して、積極的な募集を行う。】

④今後の研究方針(最終年度の場合は、期間終了後の展望)は確立しているか。

■はい 【方策について:

近年、研究調査手法として注目されている「フィールド実験(現地調査)」の実施により、様々な政策(特に社会人の健康政策)について、政策提言を行いたい。プロジェクトメンバーの本西教授が研究代表者として申請している「平成28年度研究拠点形成支援経費(学内研究費)」でのフィールド実験(現地調査)への協力も当研究施策の一環である。】

□いいえ【理由と対応策】

⑤構想調書に記載したメンバー全員の研究成果は公開されているか。

■はい【状況について:

プロジェクトのホームページ(HP)に研究成果を記載し、外部研究機関、外部研究者へ公開している。現時点において、研究成果に記載のないプロジェクトメンバーについても、本年(27年度)の経済実験結果に関する分析を進めてもらい、文部科学省提出時(3年目)は、メンバー全員の研究成果を記載することとする。】

□いいえ【理由と対応策】

4.評価体制について

①自己評価は実施しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：平成26年度(1年目)は採択時期が6月末、事業開始が9月で、実験室設置が重点事項であり、研究実績がまだ出ていないので、自己評価は見送った。平成27年度以降、実施する。】

②外部評価は実施しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：①と同じ理由で、実施を見送った。本プロジェクトの外部評価は、プロジェクトの事業開始にあたり、京都大学教授 依田高典先生、一橋大学教授 竹内幹先生、筑波大学教授 秋山英三先生の3名に外部評価委員の依頼を行い、承諾を得た。26年度は、上記①の理由で、外部評価は実施しなかったが、「平成26年度事業進捗状況報告書」を作成し、外部評価委員の方(3名)に送付した。また、同「事業進捗状況報告書」を、プロジェクトメンバー全員にも送付し、事業進捗状況について、周知した。】

※ 参考 別添「平成26年度事業進捗状況報告書」

③評価結果を反映しているか。

はい【状況について】

■いいえ【理由と対応策：2年目以降、評価を受けることにしているので、評価事項を事業に反映させることとする。】

5.外部の研究資金の導入状況について ※別添の外部資金獲得一覧をご参考としてください。

①当該プロジェクトに関連する受託研究等、指定寄付、科研費等について獲得しているか。

■はい【状況について：指定寄附金、科研費の獲得内容】

指定寄附金 25年度 プロジェクトリーダー 小川一仁 (株)ベイオーク 中古自動車流通におけるオークションの方向性を示す研究

科学研究費 26年度 プロジェクトリーダー 小川一仁 (若手B) 経済実験による目標管理制度設計と評価

科学研究費 26年度 プロジェクトメンバー 小林 創 (基盤C) 金融市場における情報開示頻度と企業合併の影響に関する理論

科学研究費 26年度 プロジェクトメンバー 村田忠彦(基盤C) 社会シミュレーションのための統計データからのエージェント生成に関する研究

科学研究費 27年度 プロジェクトメンバー 座主祥伸(若手B) 担保法制の違いが起業家行動に与える影響に関する研究

科学研究費 27年度 プロジェクトメンバー 村田忠彦(基盤C) 社会シミュレーションのための統計データからのエージェント生成に関する研究

科学研究費 27年度 PD 森 知晴(若手B) 参照点依存型効用関数による女性の労働供給行動の分析・シミュレーション

平成28年度に向け、科学研究費や新たな外部資金(厚労省、総務省等の高齢者政策に対する提言プロジェクト)への申請を行うべく、プロジェクトメンバーに示唆している。】

いいえ【理由と対応策】

6.留意事項への対応について

①採択時の意見または留意事項への対応について

該当なし

②中間評価時の留意事項について(中間評価を終えた拠点のみ)

7.特記事項

研究者の変更が生じた場合はその旨を記入

【

】

※用紙が足りない場合は適宜複写してください。

外部資金審査・評価部会からの意見等

平成 27 年 12 月 25 日

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

社会学部

小川 一仁 准教授

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 栄司

研究代表者の先生におかれましては、ご多用中、種々ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

貴プロジェクトにおかれましては、平成 28 年度に中間評価を迎えることとなりますので、学内における研究プロジェクト支援（進捗管理）の一環として「進捗状況チェックシート」及び「研究成果の概要」をご提出いただきました。

外部資金審査・評価部会において、研究の進捗状況について検討させていただきました結果、各委員から以下のようなご意見を頂きましたので、ご報告申し上げます。

来年度の文部科学省への報告書作成に際して、これらの意見をもとに、ご対応いただければ幸いです。

記

項目	コメント
1. 研究組織 について	<p>本研究プロジェクトの責任体制は、センター運営内規の制定とそれに基づくセンター推進委員会の設置以降しっかりと生まれ、経済実験を含めて順調に研究プロジェクトの運営がなされていることが伺える。研究チームも 4 班が有機的に連携して定期的な研究交流も実現しているかと思われる。大学院学生等若手の育成も図られ、他大学との連携も活発である。なお、年号表記として、冒頭記載の期間と評価日および②では平成が用いられているが、④では昨年および本年（2カ所）が用いられ、⑤では西暦が用いられているので、統一が求められよう。</p> <p>研究組織に関するスタート以前の計画が綿密であったためか、研究者間および研究チーム間の役割分担が明確でありかつ連携がうまく取れている。また事務組織および院生 PD からなる若手研究者ともうまく接合し、全体として研究を遂行するための組織として効果的効率的な組織運営がなされていると評価される。さらに、他大学の実験経済学の研究者や研究機関と積極的に連携をはかり、ワークショップを共同開催するなど、プロジェクトの初期段階から実績を積んでいる。</p>

外部資金審査・評価部会からの意見等

2. 研究施設・設備等について	<p>施設および設備については十分に確保されていると見受けられ、それらの稼働状況も良好かと思われる。</p> <p>研究プロジェクト推進に適した施設と装置・設備配置がなされ、それらの利用が効率よくなされている。</p>
3. 研究計画の進捗（達成）状況・これまでの研究成果等について	<p>研究計画は全体的には相応に順調のようではあるが、社会人向けの実験が当初計画よりも遅れているとのことで、それは協力者確保策の不十分性および上記支援体制の脆弱性に起因するのかもしれない。</p> <p>積極的に研究計画の推進を図っているようであるが、（ある程度予測されたことでもあろうが）社会人の参加者確保においてやや困難に直面している。しかし、高齢者の意思決定を明らかにすることがメインテーマであるため、年齢的に幅の広い参加者確保に一層の努力を期待したい。</p> <p>研究期間の前半であるが、すでに公刊された成果があり、さらに次なる研究成果の公表に向けた方向で進展している。</p>
4. 評価体制について	<p>自己評価および外部評価については、原則として年度単位かとも思われるが、事業開始から1年が経過した限りにおいて、半期2回分の相応の自己評価は可能かと思われる。外部評価のための委員委嘱はなされており、その点の準備は整っていると思われるが、年度末には1年半の評価を受け、その結果の反映を期待する。</p> <p>事業開始が平成26年9月ということもあって、外部評価はまだ受けていない。しかし、事業開始時にすでに3名の外部評価委員への協力依頼・承諾を済ませており、それらの委員に対して事業の進捗状況を報告している。外部評価への取り組みは十分なされていると判断される。</p>
5. 外部の研究資金の導入状況について	<p>これまでの外部資金の導入状況は良好かと受け止められる。年度末に向けて次年度の外部資金申請が企図されているようであり、期待される。</p> <p>プロジェクトチームの複数名が科学研究費を中心とする外部資金を獲得しており、導入に積極的であること、また外部からも研究が評価されていることが伺える。</p>
6. 留意事項への対応について	<p>特になし。</p>

外部資金審査・評価部会からの意見等

7. 特記事項 について	特になし。
8. 総合所見	<p>全体的にはきわめて良好な研究プロジェクトの進捗が果たされているものと思われる。ただ、当初の計画との関連では、③で示されているように社会人（高齢者）の経済実験データの収集に遅れが出ているとのことであり、その遅れを取り戻す手立てに関する記述がないことが惜まれる。何らかの手立てを講じないことには、対比経済実験は成果を生み出しにくいように思われる。</p> <p>周到な準備と焦点が絞られた完成度の高い構想をもって事業を開始したため、これまでの経過は順調に推移していると思料される。実験参加者の多様性を高めることは、掲げた目標の実現に不可欠であるため、困難な課題ではあるが様々な工夫と方略を駆使して、是非克服されるよう期待する。</p>

以上

外部評価チェックシート（見本）

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成26年度～30年度）

平成 年 月 日

ご氏名：_____

研究組織名 関西大学経済実験センター研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
小川 一仁	社会学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

1. 研究体制について

○ 研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて

5（特によい） 4（よい） 3（普通） 2（要改善） 1（特に要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

○ 研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について

5（特によい） 4（よい） 3（普通） 2（要改善） 1（特に要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

2. 研究施設について

○ 研究を実施する十分な研究施設を備えているか。

3（よい） 2（普通） 1（要改善） 0（評価保留）

コメント（必要に応じてご記入ください）

3. 研究成果について

○ 申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント (必要に応じてご記入ください)

○ 研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント (必要に応じてご記入ください)

外部評価結果

研究組織名 関西大学経済実験センター

研究プロジェクト名 高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
小川 一仁	社会学部	教授

◆外部評価委員

- ・ 依田高典（京都大学大学院経済学研究科教授）
- ・ 竹内幹（一橋大学大学院経済学研究科准教授）
- ・ 秋山英三（筑波大学 大学院システム情報研究科教授）

◆評価日：平成 28 年 6 月～7 月

◆評価結果まとめ

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

評価	コメント
1. 研究体制について	
○研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップについて	
5（特によい）	問題なし
5（特によい）	プロジェクト管理が特によいことは、初年度プロジェクトの進捗状況から判断できる。例えば、新しく拠点を立ち上げ、開放型実験拠点にするために不可欠となる実験室の運用規定を早期に策定した点や、実験室の活発な利用状況（延べ 14 の研究グループが年間 110 回の実験（参加者延べ 1982 名）を行った）等は、周到的な管理計画が結実したものであろう。今後は、相乗効果が生かされる拠点としての研究コミュニティの一体感が醸成される段階に向けた活動が期待される。
5（特によい）	プロジェクト全体の遂行に関し、自治体との交渉、ワークショップの企画、被験者リクルーティング、実験研究に至るまで、代表自ら中心的役割を果たしている。
○研究員の活動状況、各メンバーの役割、共同研究の実施について	
5（特によい）	問題なし。プロジェクトの経過と共に、就職活動に向けて両立できるように。
4（よい）	プロジェクトメンバーが著者となった発表論文が 21 件とあり、十分に評価ができる水準である。共同研究の体制も、計画よりも早期にオープンラボトリ化を実現させたこともあり、今後も大きく展開していくことが推察される。共同研究が、拠点の軸となっている高齢者の意思決定支援を中心にすすめるのか、それとも、そうした枠組みをこえた大きな研究テーマが軸となっていくのか、長期的視座に立ったプロジェクトの在り方の再構成も必要となると考えられる。
4（よい）	年 110 回の実験を実施しており、非常にアクティビティが高い。まもなく投稿、出版しそうな研究も増えている。

2. 研究施設について	
○研究を実施する十分な研究施設を備えているか。	
3 (よい)	外部実験向け簡易実験 (タブレット PC) に期待する。ラボ実験を一般人を対象に実施する「人口型フィールド実験」を進めることが望まれる。
3 (よい)	2015 年度の研究実績や実験実施状況をみるに、施設については万全であることがわかる。
3 (よい)	実験の頻度も非常に高く、学生、社会人の被験者プールの管理も国内外で群を抜いている。
3. 研究成果について	
○申請時の研究計画にそった進捗が認められるか。	
5 (特によい)	研究計画に沿ったフィールドの構築、実験協力者プールの構築は順調に進んでいる。
5 (特によい)	高齢者を対象とした経済実験の実現化が要諦であったところ、現実的な手筈でプロジェクトを進捗させており、プロジェクトチームの実行力と管理能力が奏功している。
4 (よい)	—
○研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。	
4 (よい)	十分な実験プールの形成に関して、順調に進んでいる (社会人 500 名、大学生 2000 名)。実験協力者に対して、行き届いたサーベイ質問、社会先行の実験も順調に進んでいる。3 年目にこうした土台作りが終了し、4、5 年目に成果の創出が求められる。社会問題解決あるいは学問的インパクトの高い成果に向けて、今後も取り組むことが期待される。
4 (よい)	高齢者の意思決定支援という政策応用にかんがみれば研究成果の発表の場が国内学会中心になる必然性はあるものの、国際学会や、国際的評価の高い学術誌への公刊が可能であるはずなので、今後は、そうした国際的展開を強く目指すことがより一層期待される。そうしたレベルの高い研究成果の蓄積によって、関西大学経済実験センターは、日本国内ひいてはアジア・オセアニア地域における実験経済研究の拠点になっていくはずであり、そのことによって高齢社会の政策研究に有意義な還元がなされるであろう。
5 (特によい)	2 年目にして、既に多くの実験研究の拠点になりつつある。学内外の研究プロジェクトの数も多い。特に社会人を被験者とした実験については、世界的にも稀少な研究環境を提供している。また、研究トピックとしては、自治体との共同研究が特徴的で、生駒市とのプロジェクトでは政策提言の実験研究の利用が非常に良く機能している。

内陸

地域の情報をお寄せください
 支社 0233/22135
 支社 0237/22101
 支社 0237/55125
 支社 0237/43173
 支社 0237/86142
 支社 0237/86142

幹部（鈴木本部長）が、部活動の利用者をもた「書の中、晴見と涼感を取り付けた風情が、電車そと、2014年から「美人でさしう」と鈴木が通みだりに地味良し音響に輝けはしている。部草。風雨口には、大石を響かせている。淡い青や赤の風鈴に田原英生手紙を使った花の鉢植えも設置して、気持をきき元は、伊人、松尾雅が尾の花を飾りつけに飾ら



大石田園工芸会が設置した風情が所々に散れはいる「大石



関西大の経済行動調査に協力する西川町民。町支所やセンターあいで

関西大 西川町民の経済行動調査 都市と地方意識に違い？

西川町内で関西大（阪大）の経済行動調査が、26日の日程で行われてい。調査はアンケートを通じて町民の経済的な意識や生活についてアンケートを行い、都市部と地方との意識の違いについて比較分析する。

町民アンケートは、戦略研究機構の松平敬二氏が協力して町民に調査を行っていただき、これ

これまで主に関西大の学生を対象に実施して、生活状況などに関するアンケートに記入するといふ方法を実施する。

町民が「町を暮らし楽しむ」を最優先と答えた。独自の「西川版幸福指標」創設に向けた取り組みを推進している。事業の第一弾として、町民に「まち自慢」のアンケートを行った。質問「何が一番誇りに思っているか」をめぐり、町民の意識が明らかになる。54人が調査に協力する予定。アンケートを用いて



同調査の1人松平敬二氏は「西川町の調査から、町民が利他の意識があるかどうかが分り、町が進める政策にどう多く関わっていくか」と話している。

4人がブロック大会へ

県少年の主張、村山地区大会

第5回県少年の主張大会（山形新聞）山形放送など主催）の村山地区大会が26日、東根市の東根一中で開かれた。審査の結果、最優秀賞に輝いた東根一中の山崎崇志君と、上立4人が県北ブロック大会（9月14日）大石田園工芸会への出場を決めた。

村山地区大会の8中学校から口入出場。青山、青山、田村、真田の4人が出場した。

大石町が、昭和初期に建てられた歴史的建築物「旧きりやぶ大石支店」（左記）を活用した中心街地の再開発を昨年からは始めている。事業には東根工業大の建築学系やデザイン学系の学生が協力。町民への聞き取り調査や、地元住民の考えを聞き交際を聞きながら、旧支店を主とした町の新しい創出に向けて動いている。



このため、町民が旧支店の管理運営者募集を9月15日まで募集。本格的な利活用に向けて、町民が参加するまちづくり交流会を今後開催する。設計・建築士との打ち合わせなどに参加するほか、18年度からの指定管理運営の下での飲食スペースの運営（外部委託可能）②インターネットの利用許可・料金補助③観光情報・地域情報発信④特産品の販売⑤振興・交流イベントの開催⑥などの業務を想定している。

東根工業大の学生が決定した旧支店の利活用案は、活気ある大石町を実現しよう

旧支店は「大石大火」が発生した1936（昭和11）年に建てられた。鉄筋コンクリート造りの階建て約20の平方メートル。町中央通り商店街にある。レトロな洋風の外観が特徴的だ。2008年に信託支店と大石支店の統合により空き施設になり、同行が18年に町に譲渡。同年に国の重要文化財の登録に選定された旧支店の街並みを構成する一つの要素にもなっている。



改修工事が終わった後、6月に開かれた旧支店八日町内会。今後は旧支店を利活用案を考へる学生と町民の活動拠点として使われる。大石町支店

青山、田村、真田の4人が出場した。

町は旧支店を生かしてまちづくりを進めると、15年から活用の検討を始めた。同学校の岡岡工准教授のゼミ生が町民へのアンケート調査や交流会を実施。その結果を基に、「座敷カフェや観光案内所、座敷アリススペースなども利活用案を示した報告書を作成し、今年5月町に提出した。

一方、町は旧支店を空き店舗として活用する。町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町民へのアンケート調査などを通じて、旧支店の利活用案を検討。町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町は旧支店を生かしてまちづくりを進めると、15年から活用の検討を始めた。同学校の岡岡工准教授のゼミ生が町民へのアンケート調査や交流会を実施。その結果を基に、「座敷カフェや観光案内所、座敷アリススペースなども利活用案を示した報告書を作成し、今年5月町に提出した。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町は旧支店を生かしてまちづくりを進めると、15年から活用の検討を始めた。同学校の岡岡工准教授のゼミ生が町民へのアンケート調査や交流会を実施。その結果を基に、「座敷カフェや観光案内所、座敷アリススペースなども利活用案を示した報告書を作成し、今年5月町に提出した。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町は旧支店を生かしてまちづくりを進めると、15年から活用の検討を始めた。同学校の岡岡工准教授のゼミ生が町民へのアンケート調査や交流会を実施。その結果を基に、「座敷カフェや観光案内所、座敷アリススペースなども利活用案を示した報告書を作成し、今年5月町に提出した。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町は旧支店を生かしてまちづくりを進めると、15年から活用の検討を始めた。同学校の岡岡工准教授のゼミ生が町民へのアンケート調査や交流会を実施。その結果を基に、「座敷カフェや観光案内所、座敷アリススペースなども利活用案を示した報告書を作成し、今年5月町に提出した。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

町民が17年度中に旧支店の改修・酒蔵工事に取掛かり、18年5月に寄付を受けた建物を改修して6月に工事が完了した。旧支店の利活用案を考へる学生たちの活動拠点となっている。

▼ International

ログイン メニュー ▼

日本経済新聞

2017年3月13日 (月)

電子版/新聞 お申し込み

Web刊 速報 ビジネスリーダー マーケット テクノロジー アジア スポーツ マネー ライフ 朝刊・夕刊 Myニュース 会社情報 人事ウォッチ

全て 経済 企業 国際 政治 株・金融 スポーツ 社会 地域ニュース▼ プレスリリース

Q

記事 株価

速報 > 地域ニュース > 東北 > 記事

山形・西川町民「関西人より利他的」 関西大が実験結果報告

2017/3/11 7:00

「山形県西川町の住民は、関西の人たちより利他的」——。関西大学の調査でこんな結果が得られ、9日、同町で中間報告された。西川町は昨年7月、「西川版幸福指標」づくりを目指して「西川町里山社会・文化研究所」を立ち上げており、その一環として関西大が調査。町民の他人に対する優しさが評価された。

調査は、行動経済学の「独裁者ゲーム」という実験。2人1組で独裁者役と受取人役に分かれ、独裁者が自由に分配できるお金をいくら相手に渡すかを調べることで、自分を犠牲にして他人のために資する「利他性」を測定できるとされる。

西川町の住民は、お金の平均47%を他人に渡したのに対し、関西人の場合は30%、関西大の学生は17%しか渡さなかった。西川町では半額を渡す人が最多だったのに対し、関西大の学生は1銭も渡さないが最多だった。

調査した小川一仁教授は「西川町の人たちが関西の人たちよりも利他的であることを示すデータで、利他的な行動規範が根付いている可能性がある」としている。同町は「地域の宝」である「人柄のよさ」を裏付けるデータの一つになるとみている。

[電子版トップ](#) < [速報トップ](#)

関連キーワードで検索

[関西大学](#)、[西川町里山社会・文化研究所](#)、[小川一仁](#)、[西川町](#)
[日経電子版ビジネスフォーラム採録「DXで変わる新時代の企業戦略」/NTT Com](#)

鹿児島県の限界集落“ロケットの町”から“ロボットの町”へ？/日経BP特集
 マンションを知り尽くした大手7社が集結したマンションサイト【メジャー7】
 八塩圭子が行く進出企業訪問記。ジョイフル本田の事業用地戦略/UR都市機構
 三井不動産レジデンシャルの提案：新しい都心の暮らし方「パークタワー晴海」
 自分を磨け「粋な男」のスペシャルツアー／アメリカン・エキスプレス

日経電子版特集 [PR]

TOKYO GARDEN PROJECT

東京メトロ丸の内線5分
「南阿佐ヶ谷」駅 徒歩5分

Marunouchi Line

第一種低層住居専用地域

善福寺川緑地

完成予想図

職住近接の利便性と豊かな自然の両立。
都市生活の新しいかたちは？

PROUD プラウドシティ阿佐ヶ谷 野村不動産 安藤ハザマ

主要ジャンル速報

経済

J P X日経中小型指数、1万2787で始まる 13...
 2月企業物価、1.0%上昇 前月比は0.2%上昇
 1月の機械受注3.2%減 市場予測下回る
 日・サウジ、経済協力深化 企業進出へ特区

企業

J X、アラムコと製油所 サウジでの提携検討
 東芝、東芝テック株売却へ POSレジ最大手
 第一生命、健康なほど保険料安く 異業種と開発
 トヨタのベア、前年下回る1300円 家族手当で...

日経平均(円) 3/13 9:13	19,592.88	-11.73	-0.06%
NYダウ(ドル) 3/10 終値	20,902.98	+44.79	+0.21%
日経アジア300 3/13 9:13	1,123.38	+1.65	+0.14%
ドル(円) 3/13 8:53	114.76-77	-0.64円高	-0.55%
ユーロ(円) 3/13 8:53	122.67-71	+0.44円安	+0.35%
長期金利(%)	--		
NY原油(ドル) 3/12 20:03	48.01	-0.48	-0.98%

日経平均について (銘柄一覧) Quick

FUJITSU

お客様のデジタル革新を加速する

MetaArc

メタアーク

日経からのお知らせ

[来春の新入社員を募集 記者など4職種](#)

日経電子版の活用方法

[【週末新紙面】宅配+電子版お試し実施中！](#)

おすすめ情報

国公立二次 後期試験の問題・解答
 プロが教える おいしい東京のホテル朝食
 和洋中まるごと楽しむ横浜のお店選び
 タカタとパロマ問題に共通する「誤解」
 夏も冬も、札幌で遊びつくせ！
 年収1000万円は序章にすぎない・・・
 社員の英語力、嘆く前に研修の見直し
 感動する「劇的ネーミング」の作り方

大学入試速報
 トラベル
 レストラン
 BizGate
 ゲーテ
 エグゼクティブ
 English
 BizGate

[PR]トレンドウォッチ 一覧>

新着

- 田崎真也のメルセデス・ベンツ最新ワゴン評価
- 機動力と礼節を兼ね備えた超軽量ビジネスバッグ
- 男は70歳からと語る、光のソムリエの健康管理

ビジネス

- IoTで意外な存在感を發揮する通信大手の強み
- 業界トップ企業グループが直面した壁の壊し方
- 誰一人取り残さない、持続可能な世界をつくる

暮らし

- セルフメディケーション税制の仕組みと活用法

西川・経済行動調査の中間報告

「施し」は町民の美德

西川 西川町の住民を対象に、関西天(大阪府)が昨年8月から行ってきた経済行動調査の成果中間報告会が、同町の交流センターで開かれた。簡単なゲームから住民の利他性を測定するという調査から得られた結果が発表され、大阪府と比べて同町住民は「利他的」であることが分かった。町は第6次総合計画の中で掲げる「西川版幸福指標」創設に向けた客観的な裏付けとして役立てていく。

町「幸福指標」への裏付けに

調査は昨年8月、11月、小川一仁教授が発表。分
今年3月の計3回行われ、配額が多いほど利他的で
れ、90人超の町民が参加。ある傾向が強い結果とな
お金を渡す側と受け取ることを説明した上で、
側の2人一組になり、渡す側が大阪府北部地域で行った
す側が2千円を持っていき、大阪府北部地域で行った
た場合、いくら渡すのか、大阪府北部地域で行った
を調べた。部で平均分配額が595円、地域の中で他地域と
成果報告会は同大社会学部経済実験センターの
川は同943円と分配額が異なると報告された。

この結果から小川教授は「西川の人々は利他的で平和主義的である可能性が示唆される」と説明し、「利他的な行動規範が根付いている」とした。報告会は幸福指標の創



町民を対象にした経済行動調査の結果を報告する
関西大社会学部経済実験センターの小川一仁教授
(左) 西川町交流センター

設に向け、地元で暮らす業として9日に開催。同
ことの価値観を見詰め直し、大は引き続き、今後も町
すための組織「里山社会の有効な施策実現につな
・文化研究所」の主催する調査を行っていく。